

相模原市美術館調査 報告書

平成 28 年 1 月 相模原市

目 次

I	本調査の目的	2
II	基本構想の前提となる基礎調査	
1	本市の現状分析	
(1)	本市の文化振興政策	4
(2)	美術環境に恵まれた地域特性	7
(3)	本市の美術に関わる豊富な活動実績	11
(4)	広域交流拠点(橋本駅及び相模原駅)	23
(5)	市民ニーズ	25
(6)	本市の課題の分析	29
2	美術館を取り巻く近年の動向	
(1)	大規模アートイベントの活況	31
(2)	地域活性化やまちづくりに寄与する美術館	33
(3)	美術館建築に対する新たな傾向	34
(4)	設置・運営などに関わる市民参加の拡大	37
(5)	美術館自体や企画展におけるテーマの広がり	39
(6)	カフェやショップなどの利用者サービスの拡充	41
3	先進事例調査	
(1)	美術館の基礎機能に関する事例	42
(2)	今後の美術館に新たに求められる機能や課題に関する事例	43
(3)	施設整備の在り方に関する事例	44
(4)	運営体制に関する事例	45
III	基礎調査を踏まえた「相模原市美術館基本構想」について	48
IV	「相模原市美術館基本構想」実現に必要な検討・推進事項	
1	実現に向けた検討	52
2	拠点施設の整備	54
3	運営方式の検討、運営体制の構築	56
4	市民協働	57
	■巻末資料	
1	「相模原市美術館基本構想(答申)」[平成26年2月]	61
2	市民意識調査	73
3	文化及び美術関係団体等へのアンケート	87

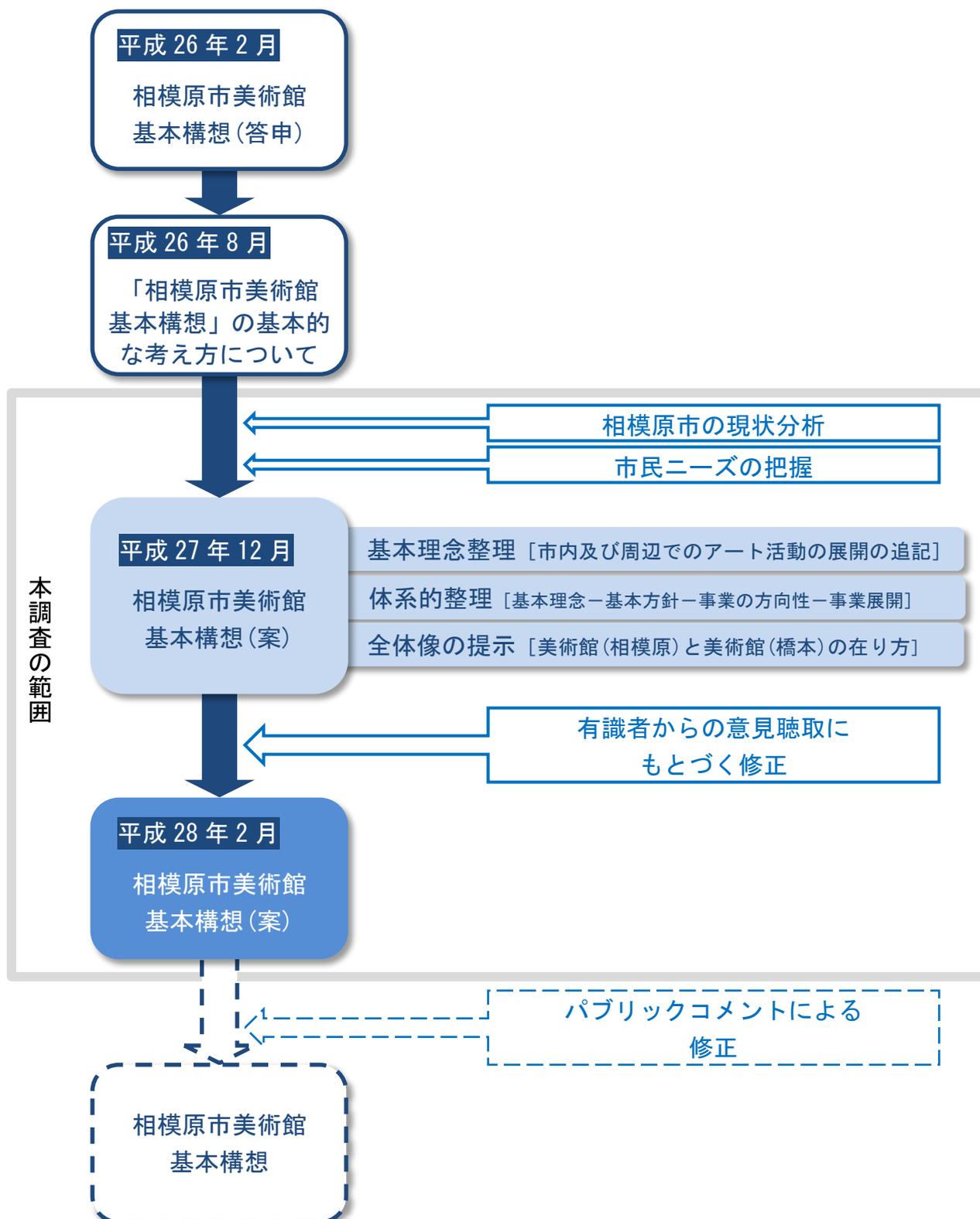
I

本調査の目的

■本調査の目的

本市では、平成26年2月に相模原市美術館基本構想検討委員会から、相模原市美術館基本構想に関する答申を受けた。

本調査業務は、この答申の内容を尊重するとともに、「相模原市美術館基本構想」の基本的な考え方について」に基づき、相模原駅周辺の相模総合補給廠返還地に整備を予定している美術館の在り方について調査を行うものである。あわせて、アートラボはしもとの機能を拡充した美術館との関係性についても整理を行う。



II

基本構想の前提となる 基礎調査

1 本市の現状分析

(1) 本市の文化振興政策

美術館整備については、第3次相模原市総合計画(昭和61年3月策定)、第4次相模原市総合計画(平成11年3月策定)に計画され、平成22年3月に策定した「新・相模原市総合計画」を踏まえ策定した実施計画においても、「美術館整備事業」と「フォトギャラリー(写真美術館)整備事業」を位置づけている。また、同総合計画を受け、策定した文化振興プランにおいても「美術館やフォトギャラリー(写真美術館)などの整備」として位置づけている。

なお、整備の推進に当たっては、「公共施設の保全・利活用基本指針」を踏まえ、検討を進める必要がある。

① 「新・相模原市総合計画」基本構想・基本計画 [平成22年3月]

○基本構想 (2012年～2032年)

一人ひとりがまちづくりの主演となり、豊かな自然を守り育て、安全で快適な生活環境をはぐくむとともに、住み、働き、学び、集うすべての人とともに生き、個性と創造力を発揮し、人と自然と産業が共生する活力ある相模原市を創造する

○基本計画 (2012年～2019年)

「人・自然・産業が共生する 活力ある さがみはら」

○相模原市の基本目標 5項目

基本目標Ⅰ 誰もが安全でいきいきと暮らせる安心・福祉都市

基本目標Ⅱ 学びあい 人と地域をはぐくむ教育・文化都市

基本目標Ⅲ やすらぎと潤いがあふれる環境共生都市

基本目標Ⅳ 活力にあふれ多様な交流が生まれる広域交流拠点都市

基本目標Ⅴ 市民とともに創る自立分権都市

○基本目標Ⅱ 教育・文化プロジェクト

「人が財産(たから)」という考えのもと、学校・家庭・地域の連携を深め、自ら学び、心豊かに成長できる教育環境を充実するとともに、豊かで彩りある市民文化の創造とスポーツ振興によるまちづくりへの取り組みを重点的に進める。

②「新・相模原市総合計画」中期実施計画 [平成26年2月]

○計画期間：平成26年度から平成28年度までの3年間

○施策20 文化の振興

・めざす姿：市民が文化・芸術に親しんでいる。

<2 文化に親しむ仕組みづくり>

市民が優れた文化を鑑賞する機会の充実や文化施設の整備・充実を図るとともに、市民の文化に関する活動などの情報を発信します。

【3年間に実施する主な事業】

事業名	事業の概要
美術館整備事業	市民が絵画や写真、映像など、様々な文化芸術に親しみ、参加するための機能や活動等、施設整備に向けた検討を進めます。[平成26～28年度] 整備に向けた検討
フォトギャラリー(写真美術館)整備及び作品展示事業	フォトギャラリー(写真美術館)の整備に向けて、写真作品の収集を行うとともに、収蔵作品展を開催します。

③文化振興プランの理念・方向 [平成22年3月]

○文化振興プランの理念

「夢輝き 未来をはぐくむ 市民文化都市 さがみはら」

文化振興プランⅠ 多彩な市民文化活動の推進—はぐくむ—

文化振興プランⅡ 文化を身近に感じる環境づくりの推進—つなぐ—

文化振興プランⅢ 市民が誇れる文化の継承—つたえる—

文化振興プランⅣ 文化を振興するための仕組みづくり—すすめる—

○文化振興プランⅡの取り組みの方向

優れた芸術作品に触れる機会の提供や文化活動の場を拡大するため、文化施設の整備・充実を図る

(1) 新たな文化施設の整備・検討

主な取り組み	内容
美術館などの整備	市民が優れた芸術に親しむことができる美術館やフォトギャラリー(写真美術館)などの整備に向けた取り組みを進める

④公共施設の保全・利活用基本指針 [平成 25 年 10 月]

○公共施設マネジメントの全体方針

(1) マネジメントの 4 つの柱

- ①**必要性**：公共施設保有に要するコストの削減を進めるとともに、施設のサービス・機能の必要性を明確化し、状況の変化に応じたサービスの適正化を図る
- ②**多様性**：最も効率的・効果的に提供できるよう、行政・民間等多様な主体がサービス提供を行う「分権・協働型システム」への転換を図る
- ③**長期性**：公共施設の老朽化による将来コストを見据え、問題建物の耐用年数を踏まえた 60 年スパンの長期的な時間軸でマネジメントを行う
- ④**総合性**：公共施設に対する市民ニーズに対応するため、所管ごとの縦割りでなく、全庁的・総合的な視点に立ったマネジメントの仕組みを構築する

(2) 公共施設マネジメントの枠組み

- ①公共施設サービスの適正化
- ②継続保有する施設(建物)の適切なマネジメント
- ③未利用資産(土地、建物)の有効活用
- ④公共施設マネジメント推進体制の整備

(3) 公共施設マネジメントの基本方針

- 方針 1：サービス・機能の必要性に応じたサービス提供の適正化
- 方針 2：サービス提供に利用する施設(建物)の適正化
- 方針 3：建物を長期にわたり安全で快適な状態に維持し、将来コストの平準化を図るための適切な予防保全の実施
- 方針 4：民間委託等の適切な手法を活用した、効率的・効果的な管理運営
- 方針 5：受益と負担の適正化、市民や地域との共同の推進
- 方針 6：市民の便益向上や収益確保を図るための未利用資産の活用
- 方針 7：専管組織の設置など、全庁的・総合的な視点から公共施設マネジメントを実施するための環境整備

(2) 美術環境に恵まれた地域特性

市内や周辺地域には、女子美術大学をはじめ数多くの美術系専門教育機関や東京国立近代美術館フィルムセンターなどのアート系公共施設があるほか、街中には、私設美術館やギャラリー、アトリエやスタジオが複数立地している。また、相模原芸術家協会をはじめとする美術関連の組織があるほか、藤野地区では、アーティストが多く居住している。

① 既存の美術関連機能

主な機能	A. 市民ギャラリー	B. アートラボはしもと	C. 市立博物館／民間倉庫
立地	J R相模原駅直結・セレオ相模原4階	J R橋本駅から徒歩12分	[市立博物館] J R淵野辺駅から徒歩20分
施設	<ul style="list-style-type: none"> 第1展示室(174.20㎡) 第2展示室(97.50㎡) 第3展示室(85.75㎡) 会議室(52.76㎡) 美術資料コーナー(47.22㎡) アートスポット(33.58㎡) 	延床面積 1,772㎡ <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ・スペース(91.9㎡) セミナールーム(65.7㎡) アトリウム(105.1㎡) シアター(81.9㎡) スタジオ(78.7㎡) チャレンジ・スペース(19.7㎡) 	美術品収蔵庫 87㎡ [民間倉庫] 東京都江東区 美術品専用収蔵庫 19.83㎡(共用部分含む)
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 本市ゆかりのアーティストの画業・活動調査 本市の美術史調査など 	<ul style="list-style-type: none"> 大学との共同による各種ワークショップ・プログラムの開発 地域資源(若手作家の活躍、造形教室の活動など)の調査 など 	—
展示公開	<ul style="list-style-type: none"> 自主企画展(年1回) アートスポット展示(年4~5回) 共催展(相模原芸術家協会・女流画家協会) フォトシティさがみはら受賞作品展 市民文化祭 市民サークルの展示など 	<ul style="list-style-type: none"> 各大学の学生作品の公開(学生企画展・卒業制作展など) 若手作家の作品公開(スーパーオープンスタジオ) 子どもたちのワークショップ成果発表など 	—
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> 美術資料コーナー 各種ワークショップなど 	<ul style="list-style-type: none"> 大学生の実践学習(学生企画展・各種大学プログラム) インターン高校生や博物館実習生の実習プログラム、児童の情操教育(各種ワークショップ) 学校や児童クラブなどでのアウトリーチ※活動など 	—
連携	<ul style="list-style-type: none"> 相模原芸術家協会などとの事業 駅ビルなどへの協力など 	<ul style="list-style-type: none"> 商店街などへの協力(マップ・ポスター制作など) 商店街の祭り(七夕・夏祭り)や大規模イベント(さがみはらフェスタや造形さがみ風っ子展)への参加 地域住民など(ロータリークラブ・育児サークルなど)との連携 JAXA・図書館・公民館等との連携事業 企業や店舗などによる人的協力・資材提供など 	—
収集保存	—	—	・収蔵美術品などの保管

※アウトリーチ：美術館などが当該施設以外の場所において実施する、美術教育や教育普及などのために行う事業

②本市及び周辺における文化・芸術の状況

[相模原市]

○美術・展示施設

- ① アートラボはしもと
- ② 相模原市民ギャラリー
- ③ 相模大野ギャラリー
- ④ 東京国立近代美術館
フィルムセンター
相模原分館
- ⑤ 相模湖交流センター
- ⑥ 光と緑の美術館
- ③③ ふじのアートヴィレッジ
- ③④ 相鑑舎/Gallery H art

○学校等

- ③⑤ 女子美術大学
女子美アートミュージアム
- ③⑥ 北里大学
相模原キャンパス
- ③⑦ 和泉短期大学

○学習・展示施設

- ⑦ 相模原市立博物館
- ⑧ 史跡田名向原遺跡
旧石器時代学習館
- ⑨ 相模原市古民家園
- ⑩ 尾崎罌堂記念館
- ⑪ 小原宿本陣
- ⑫ 相模の大凧センター
ユニコムプラザ
- ⑬ さがみはら
- ⑬⑧ 麻布大学
- ⑬⑨ 青山学院大学
相模原キャンパス
- ⑬⑩ 相模女子大学
- ⑬⑪ 桜美林大学
プラネット淵野辺キャンパス
- ⑬⑫ 弥栄高等学校
- ⑬⑬ 桜台小学校(桜台美術館)
- ⑬⑭ シュタイナー学園

[八王子市]

○学校等

- ④⑤ 東京造形大学
- ④⑥ 多摩美術大学
- ④⑦ 東京工科大学

[町田市]

○美術・展示施設

- ④⑧ 町田市立国際版画美術館
- ④⑨ 町田市フォトサロン
- ④⑩ 西山美術館

○学習・展示施設

- ④⑪ 町田市立博物館
- ④⑫ 町田市立自由民権資料館
- ④⑬ 町田市考古資料室
- ④⑭ 小島資料館
- ④⑮ 町田市民文学館
ことばらんど

○ホール・劇場

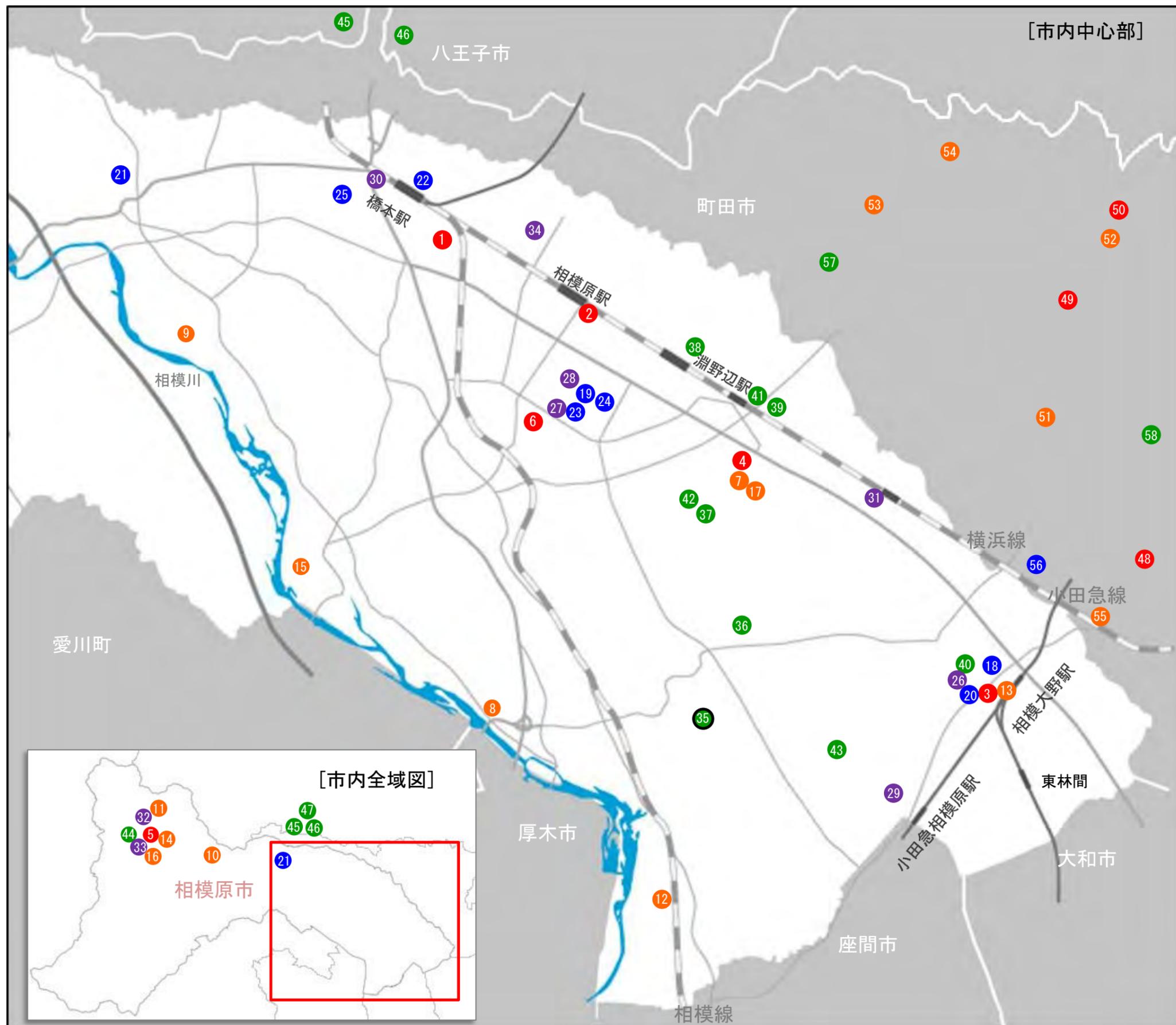
- ④⑯ 町田市民ホール

○学校等

- ④⑰ 桜美林大学
- ④⑱ 玉川大学

○民間ギャラリー

- ②⑥ ギャラリーサガン
- ②⑦ スペース遊
- ②⑧ ギャラリー誠文堂
- ②⑨ カフェギャラリーR2
- ②⑩ フクヤマ画廊
- ②⑪ ギャラリー・ヴェルジェ
- ②⑫ かどやギャラリー



(3)本市の美術に関わる豊富な活動実績

長年の間に収集した「本市収蔵美術品」を活用した市民ギャラリーでの様々な企画展や美術大学などとの連携によるアートラボはしもとでの多様なアート活動、全国的規模で実施される「総合写真祭フォトシティさがみはら」や日本最大規模の野外児童作品展「造形『さがみ風っ子展』」、藤野ふるさと芸術村メッセージ事業など、本市において市民や行政が連携した様々なアート活動が行われ、その実績が蓄積されている。

①本市収蔵美術品

本市では、市民文化の振興に寄与するために美術品を収集し、広く公開、活用をすることにより美術の振興を図るため、昭和55年より「相模原市美術品等収集基金条例」を施行し、美術品等収集事業を推進している。さらに、平成19年には、「相模原市美術品等の収集に関する要綱」を定め、これに沿った収集事業を展開している。

■市が保有している美術作品(文化振興課管理分、平成27年12月現在)

区分	入手方法	合計	内訳 (主な作家)
収蔵美術品	基金による購入	絵画など 68 点 写真 1,451 点 (14 シリーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画 27 点(岩橋英遠、吉村誠司他) ・洋画 36 点(上田薫、遠藤彰子、上條陽子他) ・彫刻 5 点(後藤良二他) ・写真 1,451 点(14 シリーズ、江成常夫)
	寄贈	絵画など 19 点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画 13 点(岩橋英遠、吉村誠司他) ・洋画 1 点(上條陽子) ・版画 3 点(古川吉重他) ・壁画 1 点(岡本太郎) ・彫刻 1 展(陶山定人)
	合計	絵画など 87 点 写真 1,451 点 (14 シリーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画 40 点 ・洋画 37 点 ・版画 3 点 ・壁画 1 点 ・彫刻 6 点 ・写真 1,451 点(14 シリーズ)
収蔵美術品以外の作品※	寄贈	絵画など 226 点 写真 1,167 点 (63 シリーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画 13 点(伊藤弘人他) ・洋画 3 点(遠藤彰子、遠藤原三他) ・素描 205 点(吉川啓示) ・版画 1 点 ・切絵 2 点 ・彫刻 2 点(後藤良二、陶山定人) ・写真 1,167 点(63 シリーズ) (江成常夫、フォトシティさがみはら「プロの部」受賞作品)
合計		絵画など 313 点 写真 2,618 点 (77 シリーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画 53 点 ・洋画 40 点 ・素描 205 点 ・版画 4 点 ・壁画 1 点 ・切絵 2 点 ・彫刻 8 点 ・写真 77 シリーズ(2,618 点)

※「相模原市美術品等の収集に関する要綱」第2条に定める「美術品等」でない(美術品等収集専門員会議に諮っていない)美術資料

②本市近代美術史略年表

年	できごと
1930(昭和 5)年	・片野湘雲が「湘雲画塾」を開き、吉川啓示・伊藤弘人・山本松らが入門
1944(昭和 19)年	・小淵村(現 藤野地区)に藤田嗣治が疎開。以降、佐藤敬・猪熊弦一郎・脇田和・中西利雄・伊勢正義・荻須高德ら新制作派の画家が次々と続き、相模湖の畔に大芸術都市の構想を提唱
1945(昭和 20)年	・伊藤弘人・宮崎行雄らが美術愛好会「相模自由画会(後に「さがみ美術」「さがみ美術協会」「相模原市美術協会」に改称)を設立
1948(昭和 23)年	・伊藤弘人が院展入選(初の有名公募展入選者。吉川啓示・山本松枝らがつづく)
1951(昭和 26)年	・相模原町が「第 1 回相模原町民文化祭」(現在の「市民文化祭」)を開催
1975(昭和 50)年	・市教育委員会が「市立小中学校美術展」(後に野外展「造形さがみ風っ子展」となる)を開催
1977(昭和 52)年	・神奈川県立近代美術館が「近代絵画巨匠展」を開催。以降、平成 4 年まで定期的に展覧会を開催
1980(昭和 55)年	・市教育委員会が「収蔵美術品等収集基金」を設置
1981(昭和 56)年	・作品の収集が始まり、吉川啓示・岩橋英遠・上條陽子らの作品を収蔵 ・市教育委員会が「日本画三人展」を開催。以降、定期的な自主企画展を開催
1982(昭和 57)年	・市教育委員会が「市収蔵美術品展」を開催。以降、定期的に巡回展を開催
1983(昭和 58)年	・神奈川県が「第 20 回神奈川県美術野外彫刻展」を県立相模原公園で開催 ・芸術科(美術・音楽)をもつ神奈川県立弥栄東高校が開校(現 県立弥栄高校)
1986(昭和 61)年	・神奈川県と相模川流域市町村との共同によるプロジェクト「いきいき未来相模川プラン」において藤野町が「森と湖と創造の拠点」として位置づけられ、「藤野ふるさと芸術村構想」を提唱
1988(昭和 63)年	・相模大野に「相模原市民ギャラリー」(現 相模大野ギャラリー)が開館 ・藤野町で「藤野ふるさと芸術村メッセージ事業(藤野アート・スフィア)」が始まり「野外環境彫刻展」(後の「芸術の道」)や「アートシンポジウム」などを開催(現在では「ぐるっと陶器市」「ひかり祭り」「村歌舞伎公演」「サニーサイドウォーク」なども開催)
1990(平成 2)年	・市教育委員会が「江成常夫写真展」を開催。以降、新作ごとに開催 ・女子美術大学相模原キャンパスが開校。「女子美アートミュージム」を併設
1991(平成 3)年	・吉川啓示・陶山定人・上條陽子らが「相模原芸術家協会」を設立
1992(平成 4)年	・第 1 回相模原芸術家協会展を開催。以降、毎年開催
1993(平成 5)年	・相模湖町が「相模湖野外美術館彫刻展」を開催(作品を設置)
1994(平成 6)年	・イタリア現代美術を中心とした私立美術館「光と緑の美術館」が開館 ・高木辰夫・川島茂雄ら彫刻家が「第 1 回公園と彫刻」を開催(10 年間継続)
1995(平成 7)年	・藤野町に芸術体験活動施設「神奈川県立藤野芸術の家」が開館(工作体験のほか演劇ワークショップ・音楽ワークショップなど様々な事業を展開)
1997(平成 9)年	・相模原駅ビル内に「相模原市民ギャラリー」が開館
1998(平成 10)年	・市民ギャラリーで開館記念展「描かれた花—ゴッホからモンドリアン」を開催。以降、自主企画展・収蔵美術品展・学生企画展などを定期的に開催 ・光と緑の美術館やギャラリースペース游などが連携して「アトラリー in ゆめ国体」を開催 ・みちの協会が「みちの造形展」を開始(10 年間継続)
1999(平成 11)年	・県立弥栄東高校(現 弥栄高校)が「第 1 回アトラライブ郊外公演」を開催

年	できごと
2000(平成 12)年	・相模湖町にホール・アートギャラリーなどを併設する「神奈川県立相模湖交流センター」が開館。定期的に企画展を開催
2001(平成 13)年	・小原義也・横田瑛子・大貫博・菅沼稔らが現代美術家集団「CAT」を設立、「第1回CAT展」を開催(10年間継続) ・本市が「総合写真祭フォトシティさがみはら」を開催。以降、毎年開催 ・本市と女子美術大学が「文化促進協定」を結ぶ
2003(平成 15)年	・市民ギャラリー内に「アートのスポット」を開設。隔月でミニ展示を開催
2004(平成 16)年	・藤野町が「教育芸術特区」に認定される(翌年、シュタイナー学園が開校) ・陶山定人らによる「相模原市美術館設立を要望する会」が7,000人の署名とともに市に美術館建設を要望
2006(平成 18)年	・「相模原市・津久井町・相模湖町合併記念美術展」を相模湖交流センターで開催 ・上條陽子らが「市民の美術館を考える会」を設立(その後に解散)
2007(平成 19)年	・「新相模原市誕生記念ー芸術家体験 in ふじの」を藤野芸術の家で開催 ・日比野克彦プロデュースによる新相模原市PRイベントを実施
2008(平成 20)年	・本市が「相模原市美術館検討委員会」を設置(平成 21年3月に「相模原市の美術館にかかる提言書」を提出)
2010(平成 22)年	・藤野地区に在住作家の交流発信拠点「ふじのアート・ヴィレッジ」が開設 ・本市が「さがみはら文化振興プラン」を策定
2011(平成 23)年	・本市が「相模原市美術館基本構想検討委員会」を設置(平成 26年2月に「相模市美術館基本構想(答申)」を提出)
2012(平成 24)年	・本市・女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学が「アトラボはしもとに関する基本協定」を締結 ・本市が「アトラボはしもと」を開館(以降、美大生や若手作家の作品展示、様々なワークショップ・公演・トークショー・アウトリーチ活動などを実施)

※相模原町は昭和 29 年に相模原市に移行し、さらに平成 18 年に津久井町・相模湖町と、平成 19 年に城山町・藤野町と合併。



片野湘雲作品



相模原芸術家協会展(トロント交流展)



現代美術家集団「CAT」展



みちの造形展

③市民ギャラリーの展覧会

1997(平成9)年、JR横浜線相模原駅の駅ビルNOW(現在はセレナ)4階に約375㎡の展示室を持つ「相模原市民ギャラリー」が開館した。これまでも県や市教育委員会による展覧会が市民会館やあじさい会館で開かれていたが、これを機に以後の展覧会はここを会場とすることとなった。なお、当館は市民サークルなどが制作活動の発表をする会場であるが、「調査研究の成果に基づく展覧会(自主企画展等)を開催する」ことが条例で定められており、学芸員が配属されている。

【過去の展覧会一覧】

*市民ギャラリーで企画した展覧会のみ記載

開催年度	展覧会名
1997(平成9)年	収蔵美術品展「平成9年度相模原市収蔵美術品展」 開館記念展「描かれた花—ゴッホからモンドリアンまで」
1997 平成10)年	収蔵美術品展「平成10年度相模原市収蔵美術品展」 自主企画展「版画の技と美の世界」
1999(平成11)年	自主企画展「相模原ゆかりの作家たち」 自主企画展「日本画で描く—四季の詩情」
2000(平成12)年	自主企画展「永遠なる大ロマン—岩橋英遠展」 収蔵美術品展「相模原招待作家展—市収蔵美術品を中心に」
2001(平成13)年	自主企画展「7Artists style/life」 自主企画展「モリワキット・エキスポ2001」 自主企画展「近・現代の女性作家展—相模原女性画壇と女子美の100年」
2002(平成14)年	第1期学生企画展「日常解体新書」 収蔵美術品展「涼を呼ぶ旅と風景」 開館5周年記念展「秋慕—竹久夢二展」
2003(平成15)年	自主企画展「オープン・スタジオ」 自主企画展「上田薫展—自然その一瞬の輝き」
2004(平成16)年	第2期学生企画展「空のリレー」 自主企画展「相模原を愛した日本画家—吉川啓示展」 収蔵美術品展「相模原の美術50年」
2005(平成17)年	自主企画展「動物幻想国—5人の作家による立体造形展」 自主企画展「立体作家11人展—時空を超えたメッセージ」
2006(平成18)年	第3期学生企画展「アートバカンス!—今年の夏はバカに熱い」 自主企画展「厚紙平面大劇場—上條陽子展」 収蔵美術品展「相模原の現代絵画展—コレクションと新しい歩み」
2007(平成19)年	自主企画展「大谷有花×川田祐子—おしゃべりな色思い出す色」 開館10周年記念展「現代日本画の名品展—魅惑の箱根・芦ノ湖成川美術館コレクション」
2008(平成20)年	第4期学生企画展「わたしはあなたが理解できない—そこから始まるコミュニケーション」 自主企画展「片野湘雲とその一門展」 収蔵美術品展「吉川啓示—淡彩写生百景展」
2009(平成21)年	自主企画展「おかえりアーティストただいま展」 自主企画展「無限の創造力—秋竜山まんが祭り」 収蔵美術品展「新コレクションと招待作家」
2010(平成22)年	第5期学生企画展「いない いないGO!」
2011(平成23)年	収蔵美術品展「ぐるり相模原—美術の見晴し台—相模原市収蔵美術品から学校所蔵作品まで」
2013(平成25)年	収蔵美術品展「相模原女性画家展—時代を翔る女たち」
2014(平成26)年	収蔵美術品展「岩橋英遠×吉村誠司—日本画のチカラ」
2015(平成27)年	収蔵美術品展「抽象2つの感性—上條陽子・真島明子」

*このほか、ミニ展示コーナー「アートスポット」においてこれまでに67回の展示を開催

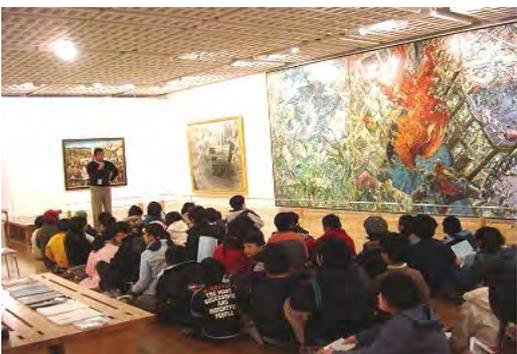
*学生企画展(学生企画による学生作家の展覧会)は平成24年度よりアートラボはしもとで開催



現代日本画の名品展



厚紙平面大劇場—上條陽子展



相模原の現代絵画展



第5期学生企画展「いない いないG.O!」



アートスポット展示



大谷有花×川田祐子—おしゃべりな色思い出す色

【市民ギャラリー利用率】

年度	展 示 室				
	開館日数(日)	利用日数(日)	利用団体(数)	利用者数(人)	利用率(%)
平成22年度	302	274	49	46,116	90.73%
平成23年度	302	275	58	42,095	91.06%
平成24年度	302	223	51	34,430	73.84%
平成25年度	302	223	66	42,820	73.84%
平成26年度	302	268	59	39,975	88.74%

※平成24～25年度は東日本大震災の影響で利用日数が減った

④造形「さがみ風っ子展」

造形「さがみ風っ子展」は、本市域のすべての小・中学校並びに特別支援学校など100を超える学校の生徒の作品約20,000点が展示される最大規模の野外児童作品展である。本市の特色ある学校教育として40年近くにわたって実施され、児童美術教育の先進的な事例として各方面から高い評価を得ると同時に、長年にわたって広く市民にも親しまれている。

1 目的

- (1) 造形作品の発表を通して、創造活動の喜びと美術を愛好する人間性豊かな心と感性を育てる。
- (2) 広く造形作品を発表することで次の内容を積極的に推進し、子ども文化の創造と本市の学校教育の充実と発展を期する。
 - ・開かれた学校教育の場として、市民とのふれあいを通して子どもの理解の場とする。
 - ・小・中学校の造形活動を通じた交流の場とする。
 - ・造形的感性や創造力、表現力を育てる実践をめざし、教師の研究の場として、図工・美術教育にかかわる活動や内容を発信していく。

2 テーマ 「青空に広げよう、創造と友情の輪を！」

3 会場 淵野辺会場(淵野辺公園「芝生広場」「樹林広場」計約23,000㎡) 女子美会場(「女子美アートミュージアム」「ロビー」計約690㎡)

4 経過

1975(昭和50)年	「相模原小中学校美術展」として開始。公民館を巡回。
1979(昭和54)年	国際児童年を機に野外展「造形さがみ風っ子展」となる。
1985(昭和60)年	音楽・演劇など「ステージ部門」を加え「さがみ風っ子文化祭」となる(「風っ子展」は展示部門)。
2003(平成15)年	淵野辺会場のほかに女子美会場が加わる。



第1回開催セレモニー(1975年)



話題となった大迷路



第37回展(2015年)



第37回展(2015年)

⑤藤野ふるさと芸術村メッセージ事業

1 背景

1944(昭和19)年夏、画家・藤田嗣治が戦火を避け、小淵村(現 相模原市緑区小淵)に疎開してきた。その後、佐藤敬、猪熊弦一郎、荻須高德、中西利雄、脇田和、伊勢正義ら、いわゆる新制作派の画家たちもつづき、村人との交流が始まった。おりしもダム工事に伴い相模湖ができつつあったことから画家たちはここを芸術都市にしようと考え、芸術大学をつくり、その周辺に「ピカソ通り」「マチス通り」などを配した「芸術都市構想」を打ち立てて、その完成予想図を作成した。現在、それぞれの疎開先の旧家には、画家たちが描き残した絵画やスケッチなど40点余が残されている。

2 事業

1987(昭和61)年、神奈川県は相模川流域市町村とともに「いきいき未来相模川プラン」を策定した。この中において旧藤野町は“森と湖の創造の拠点”として位置づけられ、上記のような時代的背景を基に「藤野ふるさと芸術村構想」が提唱された。

これに伴い、1988(昭和63)年から「藤野ふるさとメッセージ事業(通称：藤野アート・スフィア)」が始まった。同事業では今や藤野のランドマークにもなっている『緑のラブレター』を含む30点ほどの野外環境作品が並ぶ「芸術の道」や、宿泊をしながら造形体験や演劇・音楽鑑賞が楽しめる「県立藤野芸術の家」などが整備されたほか、諸外国から招いたアーティストによる作品制作やシンポジウム、パフォーマンス・コンサート、さらには人形浄瑠璃や村歌舞伎、特産品の販売など、アーティストから地元住民までもが連動した様々なイベントが行われている。

現在、藤野地区には画家・彫刻家・陶芸家・工芸家・写真家・映像作家・音楽家・演劇家など200人以上のアーティストが住むと言われている。アート・スフィアもますます盛んになっており、春の「藤野ぐるっと陶器市」や夏の「ひかり祭り」、秋の「サニーサイドウォーク」など人気の高いイベントも始まっている。名実ともに藤野は制作と生活が密着する“芸術のまち”となっている。



「静物」伊勢正義



「緑のラブレター」高橋政行



藤野芸術の家



藤野ぐるっと陶器市

⑥相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら

1 概要

本市では優れた記録性と豊かな表現機能を兼ね備え、広く親しまれている写真にスポットをあてた、「相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら」を2001年から毎年開催している。

写真祭では、構想創案者である江成常夫氏のコンセプトに基づく事業展開を図っており、次代を担うプロ写真家の顕彰や、アマチュアの皆様へ作品の発表の場の提供、写真展や親子写真教室などのイベントの開催などを通じて、写真文化の振興に努め、第2回目の写真祭においては海外にも目を向け、特に日本と様々な分野で密接な関係にあるアジア地域を対象とした「さがみはら写真アジア賞」を創設した。

これらの取組は、市の内外から高く評価されており、2006年に「日本写真協会賞文化振興賞」を、2011年には「日本写真家協会賞」を受賞した。

これまで、プロの部では、さがみはら写真賞15名373点、さがみはら写真アジア賞13名215点、さがみはら写真新人奨励賞34名563点の計62名1,151点、アマチュアの部では、813名813点の作品を収集している。

2015年には15周年を迎え、若い世代にも写真文化を身近に感じていただくため、高校生以下を対象としたジュニア賞を新設し、さらなる写真文化の振興に努めている。

2 収集作品(平成27年度末現在)

区分		人数(人)	点数(点)
プロの部	さがみはら写真賞	15	373
	さがみはら写真アジア賞	13	215
	さがみはら写真新人奨励賞	34	563
	計	62	1,151
アマチュアの部		813	813

3 基本構成



4 市民参加イベント

(1) 子ども写真教室

総合学習の授業として位置付け、市立小学校の5年生約300人を対象に、地元写真愛好家などの指導のもと、写真の撮り方や写真の面白さを子どもたちに伝えるとともに、撮影した作品の中からお気に入りの1枚を展示する。

○これまでの事業実績：42校4,244人

(2) 一般写真教室

市内公民館との共催による、初心者、中級者を対象とした写真教室。

○これまでの事業実績：30箇所

(3) 親子写真教室

参加する親子すべてにデジタルカメラを各自1台貸出して行う写真教室で、地元写真愛好家などの指導のもと、写真の撮影、プリントした写真の感想や意見交換を行い、撮影した写真の中から1枚を選んでタイトルを付け、プロの写真家が講評する。

○これまでの事業実績：294人

(4) 私のこの1枚写真展

写真ファンから寄せられた、とっておきの1枚を展示。展示ボードを購入し、自分の気に入った写真を貼り付ければ誰でも参加できる写真展。

○これまでの事業実績：4,327点

5 パブリシティ

日本カメラ、フォトコン、アサヒカメラなど主に写真専門誌に、広告記事を掲載。2009年、2010年(10周年)、2012年、2015年(15周年)には、神奈川新聞へフォトシティさがみはらの取組など特集記事を掲載。



展示室風景



ギャラリートーク



フォト・シンポジウム



親子写真教室

⑥アートラボはしもとの活動実績

1 概要

アートラボはしもとは、2008（平成20）年に設置された民間のマンション販売センターを再利用して2012（平成24）年に開館した“アートの活動拠点”である。周辺にある美術系大学、アーティスト、市民、商店街などと連携し、先進的・実験的な展示やワークショップなどを実施しながら、それらをまちづくりに生かすとともに、将来の美術館整備に向けて知識や経験の蓄積をしている。今後の美術館機能で重要な「教育普及」「交流・発信」を先行的かつ重点的に試行し、児童・市民向けの造形ワークショップなどを数多く実施するとともに、美大生や若手アーティストの指導・支援にも力を注いでいる。

また、本市域には女子美術大学があり、隣接する町田市・八王子市には多摩美術大学、東京造形大学、芸術文化学群をもつ桜美林大学などがある。本市はこれらの大学の学生たちの生活拠点となっており、全国的に見ても有数の美大・美大生に恵まれた市と言える。アートラボはしもとでは、これら4大学と基本協定を結び、相互にまたは共同で、様々なアートのプログラムを実行している。

2 主なプログラム

(1) 『はじめましてアートラボ』ほか

『はじめましてアートラボ』『春の感謝祭』『夢へのイロハ未来のスズメ』と3年間にわたって行った総合プログラム。ロータリークラブの資金協力を基に、延べ1,000人近い小学6年生と制作した「思い出アニメーション」や「未来バス停」などの上映・展示、版画家たちが制作した6×12mの巨大なステンシル作品の公開制作、医師や和菓子職人などが講師となるワークショップの開催など、様々な方面からのプログラムを実施した。



『はじめましてアートラボ』

(2) 『たつまきエメラルド』ほか

学生たちが1年間をかけて自分たちで企画し、運営する長期体験型ワークショップ「学生企画展」に伴う展覧会。6期生の『ぞっこんの法則』、7期生の『ごはんのおとも』、8期生の『たつまきエメラルド』、9期生の『数でこころ動くんだ』とつづき、現在、10期生がその準備を進めている。学生の作品展示のほか、造形ワークショップやトークショーなど内容も多彩。商店街や市民との連携も深く、関連イベントも多い。



『たつまきエメラルド』

(3) 『スーパーオープンスタジオ』

相模原市域には若手アーティストのスタジオ（共同制作場）が多数存在する。本プログラムは、それらのスタジオを期間限定で公開し、相互の交流、地域住民への理解、市民や美術関係者への情報発信などを行うものである。また、ア



『スーパーオープンスタジオ』

トラボでは全体のインフォメーションのほか、一部アーティストの作品展示、公開制作、シンポジウムなどが行われる。これまで3年続けて実施しており、毎年、20ヶ所ほどのスタジオ、100人を超える若手アーティストが参加している。

(4) 『ワークショップ広場』

絵画教室・造形教室の主宰者や大学のサークルなどを招き、それぞれ独特の手法で行う様々なワークショップを実施している。併せて、こうした教室での活動に関する調査やシンポジウムの開催なども行っている。



『ワークショップ広場』

(5) 女子美術大学のプログラム

女子美術大学では、隕石を原料とする岩絵の具による作品の展示や子どもたちとのワークショップのほか、大学助手らによる街探訪に基づく各種トークショーなどを行っている。



女子美術大学のプログラム

(6) 東京造形大学のプログラム

東京造形大学では、附属美術館が企画する連続ワークショップ『ぞうけい!たのしい!』やTシャツをデザインするワークショップ、大学院生による実験的な作品展示『共鳴』『このシンクロにこのシティ』『うつろいつつうらうら』『みなものみかた』などを行っている。大学院プログラムでは毎回、多くの留学生も参加することが特徴となっている。



東京造形大学のプログラム

(7) 多摩美術大学

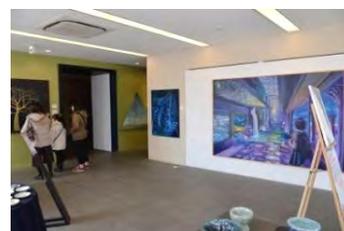
多摩美術大学では授業の一環として、学生たちが企画した展示やワークショップなどを行っている。子ども向けが多く『ひかりのたからばこ』『宇宙から虫かごへ』『ふしぎ王国タルバロ』とタイトルも楽しく、光や映像を駆使したものが多い。



多摩美術大学のプログラム

(8) 桜美林大学

桜美林大学では、毎年、造形デザイン専修学生による卒業制作展『基点と起点』を開催している。同大学では舞台芸術にも力を入れているため、併せてコンサートや演劇、映画の上映なども行っており、特に歌って踊る寸劇『水戸黄門』は、子どもたちにも人気のある公演となっている。



桜美林大学のプログラム

(9) アウトリーチ活動

アートラボでは日本最大規模の野外児童作品展『造形さがみ風っ子展』や、20万人もの来場者のある『潤水都市さがみはらフェスタ』、地元の祭り『橋本七夕祭り』などにも参加し、展示やワークショップなどを行っている。



アウトリーチ活動

⑦「相模原市美術館」設立要望書の提出 [平成 16 年 10 月 28 日]

「相模原市美術館」設立を要望する会より約 7,000 名の署名簿が添付された要望書が提出された。

○「相模原市美術館」設立を要望する会(肩書きは当時のもの)

世話人 内藤昭典(相模原市文化協会会長)

陶山定人(彫刻家・相模原芸術家協会会長)

片野昌克(書家)

賛同人(上記世話人を含む 30 名・50 音順)

井上皎(相模原市文化協会理事)

岩橋崇至(写真家)

遠藤彰子(画家・武蔵野美術大学教授)

遠藤原三(画家・光風会評議員)

江成常夫(写真家・九州産業大学大学院教授)

太田浄子(境川の斜面緑地を守る会事務局長)

大貫鬼灯(相模原市俳句連盟会長)

大野秀利(相模原市薬剤師会会長)

小原義也(画家・現代美術 C A T 代表)

河原武彦(相模原歯科医師会会長)

片野昌克(書家)

上條陽子(美術家・相模原芸術家協会実行委員長)

神崎彰利(相模原市史編纂室特別顧問)

香村紘一(相模原考古学研究会代表)

後藤公一(画家・相模原芸術家協会事務局)

篠崎明弘(相模原市写真連盟会長)

清水龍雄(画家・相模原芸術家協会副実行委員長)

菅沼稔(画家・現代美術 C A T 会員)

陶山定人(彫刻家・相模原芸術家協会会長)

多田作治(相模原園芸愛好会会長)

内藤昭典(相模原市文化協会会長)

成田禎介(画家・相模原芸術家協会副会長)

細谷玉江(画家・相模原芸術家協会事務局長)

正奈史(華道家・相模原市文化協会理事)

矢島治(相模原市医師会会長)

安丸信行(彫刻家・相模原芸術家協会副実行委員長)

横田瑛子(画家・現代美術 C A T 会員)

吉川啓示(画家・相模原芸術家協会名誉顧問)

吉原洋子(吉原学園代表取締役)

若林花泉(書家・相模原市書道連盟会長)

(4) 広域交流拠点(橋本駅及び相模原駅)

広域交流拠点のポテンシャルを生かし、首都圏南西部の広域的な視点から本市の都市力向上をめざすために策定した「広域交流拠点基本計画」に基づき、橋本駅及び相模原駅周辺を核としたまちづくりを進めているが、相模原駅周辺は、「安心とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点」の機能を担う役割となっている。

①相模原市広域交流拠点基本計画 [平成 26 年 6 月]

(1) 広域交流拠点基本計画策定の目的

背景：リニア中央新幹線の神奈川県駅設置

(東京都-大阪市の全線開業は 2045 年の予定)

首都圏中央連絡自動車道の整備(2015 年より順次開通)

相模総合補給廠の一部返還(2014 年 9 月)

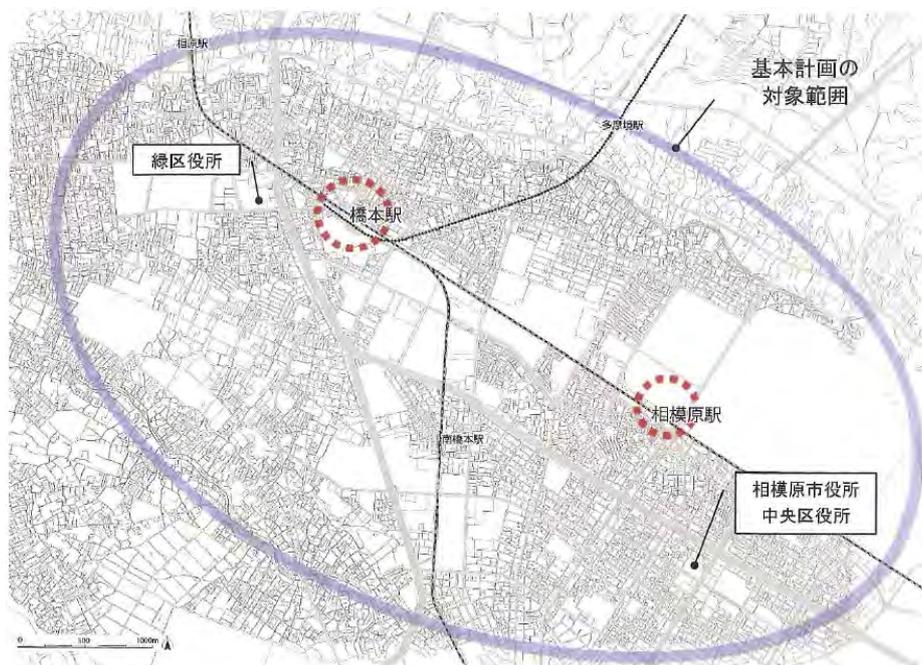
相模原市はこの背景を踏まえ、首都圏南西部の玄関口及び神奈川県北のゲートとして、また東京都心や関西方面、湘南方面などの様々な圏域からの交通網が交差する内陸ハブシティとしての役割を果たすため、「広域交流拠点」の形成に向けた検討を行う。

《目標期間》

リニア中央新幹線が大阪まで開通する 2045 (平成 57) 年度を目標年次とした約 30 年間。

《基本計画が対象とするエリア》

橋本・相模原両駅周辺の一体的なエリアを「広域交流拠点」とする。



(2) 社会経済情勢の変化を踏まえた都市づくり

- ① 「都市化社会」から地域の個性や魅力を生かした都市づくりへの転換
- ② 「拡散型都市構造」から「歩いて暮らせる集約型都市構造」への再編
- ③ 環境と共生した「低炭素・循環型」の都市づくり
- ④ 地域の実情に応じた「選択と集中」による都市づくり
- ⑤ 「防災・減災社会」の実現

(3) 広域交流拠点の理念と将来像

「未来を拓く さがみはら新都心」

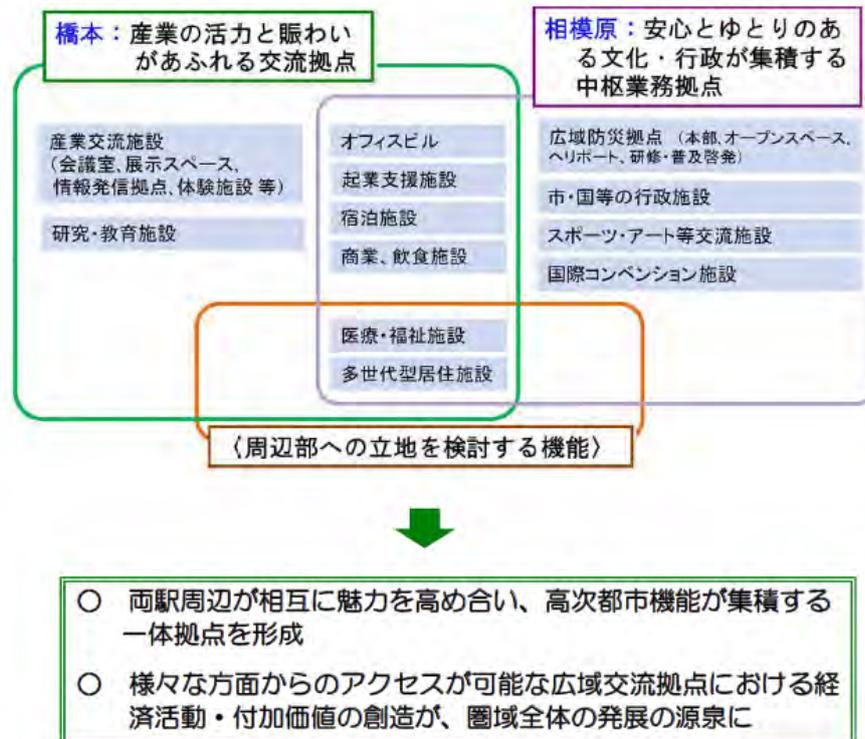
- 広域交通網を生かしたアジア・世界のゲートウェイとしての情報・人材・文化の交流、集積
- 相模原市全体、首都圏南西部全体の持続的な成長の源泉
- 社会経済情勢の変化に対応した暮らしやすく先進的な市街地の形成

《広域交流拠点の基本方針》

ア 導入機能の方向性

1. 産業交流拠点形成戦略：国内外との交流による産業のイノベーション拠点、宇宙開発やロボット産業を核とした交流拠点、都市インフラ輸出発信拠点、多彩な産業のインキュベーション拠点
2. 中枢業務拠点形成戦略：首都圏の広域防災拠点、複合的な行政機能拠点、国内外からの業務機能誘致
3. 交流・生活人口拡大機能：文化や躍動感の源となる広域的スポーツ・アート交流地点、少子・高齢化社会に対応した医療・福祉・多世代共生の拠点

イ 橋本駅周辺・相模原駅周辺の機能分担



出典：『相模原市 広域交流拠点基本計画 概要版』

(5) 市民ニーズ

市民ニーズを把握するため、市政モニター制度を活用して、アンケート調査を行った。実施概要と主な結果は、以下のとおりである。(詳細は巻末資料 p. 93 を参照)

① アンケート実施概要

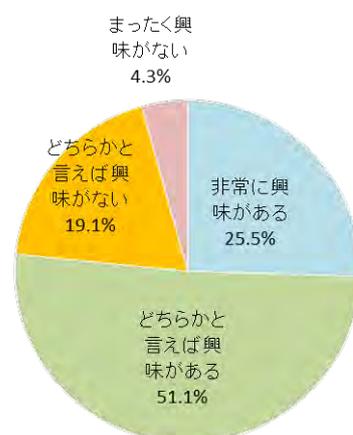
- 対象と回答者数 市政モニター148人中、回答者 143人
- 実施期間 平成27年9月2日から9月14日まで
- 目的 美術への興味や美術館の整備に対するご意見をお伺いし、本市に相応しい美術館の在り方を考える上での参考とするために実施

② 主な結果

【美術に対する意識】

[1] 美術への興味

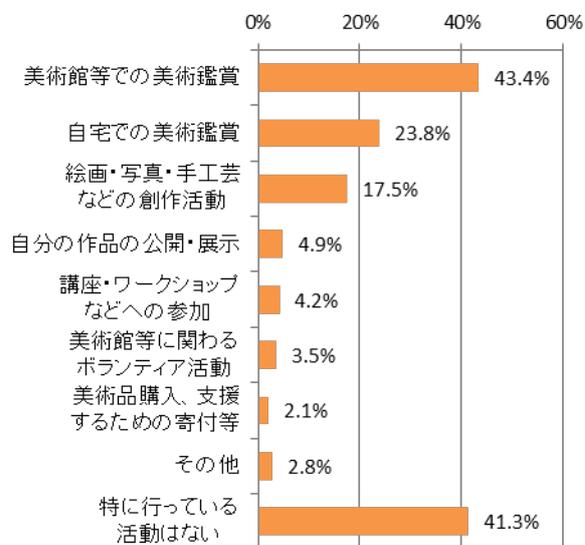
・「非常に興味がある」(25.5%)、「どちらかと言えば興味がある」(51.1%)を合わせた76.6%が「興味がある」と回答しており、興味を持っている市民が大多数である。男性(71.5%)に比べて女性(81.7%)のほうが興味を持っている割合が高い。また、年齢が高いほど興味を持っている割合が高い傾向があるものの、40～59歳では興味がない割合が若干高い(「どちらかと言えば/まったく興味がない」の合計が、回答者全体では23.4%だったのに対して、40歳代で30.8%、50歳代で33.4%)。



[美術への興味]

[2] 美術活動への参加の有無

・美術に関する活動を行っている市民は、全体の6割弱にとどまり、美術鑑賞が中心。主体的な活動を行っている市民は、2割程度しか見られない。また、「特に行っている活動はない」が高いのは、子どもがいる回答者(52.3%)。

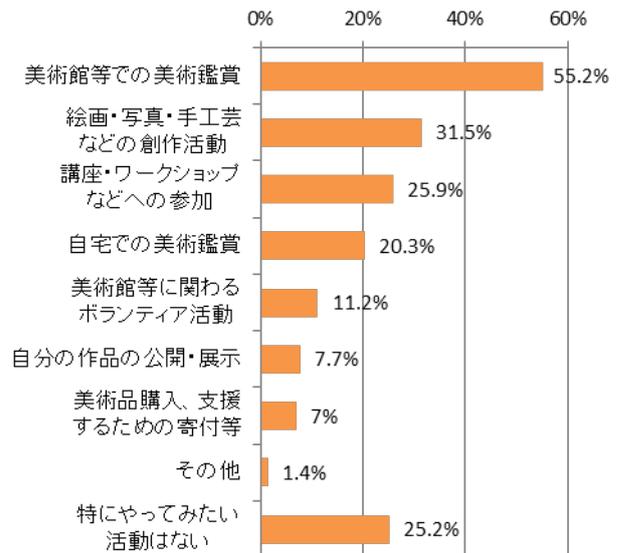


[美術活動への参加の有無]

[3] 参加してみたい美術活動

・「美術館等での美術鑑賞」に対する参加意欲は5割を超え、非常に高い。また、創作活動や講座・ワークショップ、ボランティア活動について、潜在的な参加意欲が見られる。「特にやってみたい活動はない」は、子どもがいる(22.7%)に対して、子どもがいない(26.8%)ほうが高いことから、子どもがいるほうが参加意欲は若干高い。

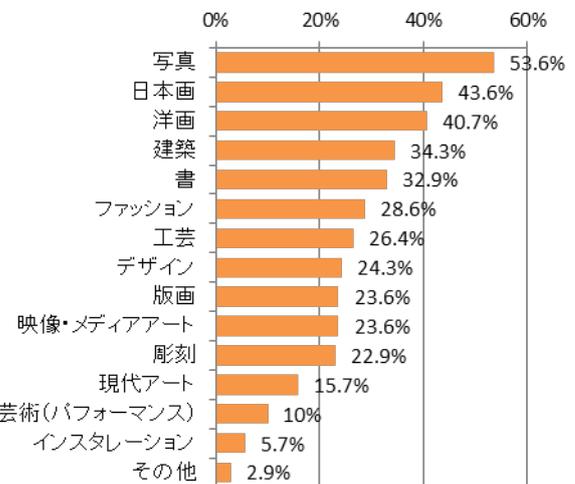
・美術活動への参加の有無と比較した結果、創作活動や講座・ワークショップへの参加機会の提供が求められていることが分かる。さらに、30～49歳を中心とする子育て世代において、潜在的な美術活動への意欲が見られる。



[参加してみたい美術活動]

[4] 興味のある美術分野

・「写真」「日本画」「洋画」「建築」「書」に対する興味が高い。ただし、性別、年齢別で興味の対象が異なっている。

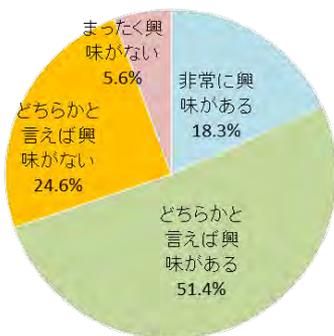


[興味のある美術分野]

【美術館に対する意識】

[1] 美術館への興味

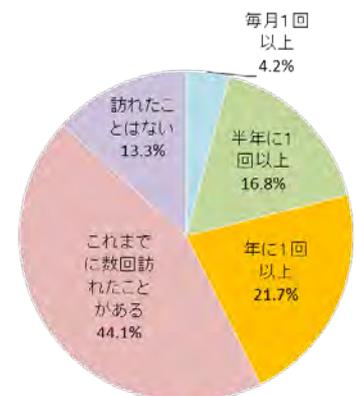
・7割が美術館に興味があり、「全く興味がない」は非常に低い。



[美術館への興味]

[2] 美術館に行く頻度

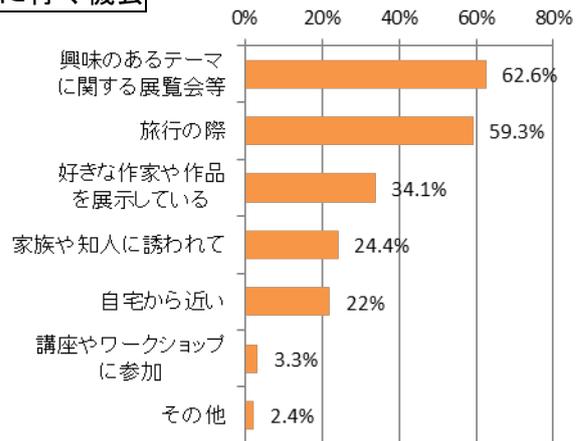
・最も多いのは、「これまでに数回訪れたことがある」(44.1%)。「訪れたことはない」が13.3%見られる。年に1回以上訪れる割合は21.7%、半年に1回以上訪れる割合は16.8%、毎月以上訪れる割合は4.2%で、合計で42.7%となる。20～49歳では、定期的に訪れる機会が比較的少ない(定期的に来訪している割合は、20代25.0%、30歳代35.7%、40歳代30.8%)。



[美術館に行く頻度]

[3] (美術館への来館経験がある方) 美術館に行く機会

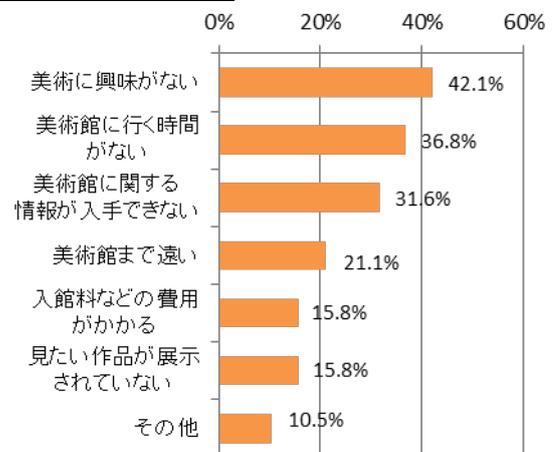
- ・「興味のある展覧会等」(62.6%)が最も多く、次いで「旅行の際」(59.3%)が多い。また、美術館を訪れる層に対しては、来館のきっかけとして「展覧会の内容」が重要である。市民の興味を惹く企画展の開催が求められる。



[美術館に行く機会]

[4] (美術館への来館経験がない方) 美術館を訪れなかった理由

- ・「美術に興味がない」(42.1%)が最も多く、次いで「美術館に行く時間がない」(36.8%)、「美術館に関する情報が入手できない」(31.6%)が多い。これまで美術館を訪れなかった層に対しては、「美術館に関する情報の提供」が重要である。

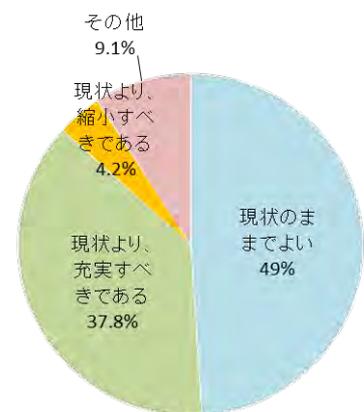


[美術館を訪れなかった理由]

【相模原市の美術館などに対する考え】

[1] 相模原市の美術活動への考え

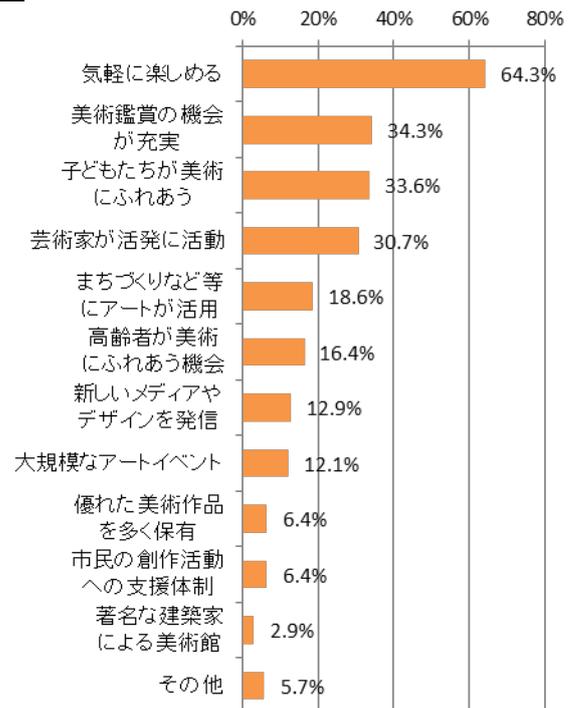
- ・「現状のままでよい」(49.0%)で最も多く、次いで「現状より充実すべきである」(37.8%)。属性別で見ると、「40～49歳」「60～69歳」で「現状のままでよい」が半数を超え高い。年齢別で異なる傾向が見られ、「20～29歳」「30～39歳」「50～59歳」「70歳以上」では、「現状より充実すべきである」が多い。
- ・「現状のままでよい」と回答した理由として、現状に対して満足している意見がある一方、「市内の美術活動を利用したことがないのでわからない」という意見も見られた。
- ・「現状より充実すべき」と回答した理由として、「市域全体でアートにふれあえる機会の創出」を望む意見が見られた。また、「情報発信の不足」への指摘も見られた。



[相模原市の美術活動への考え]

[2] 相模原市の美術に関する目指すべきイメージ

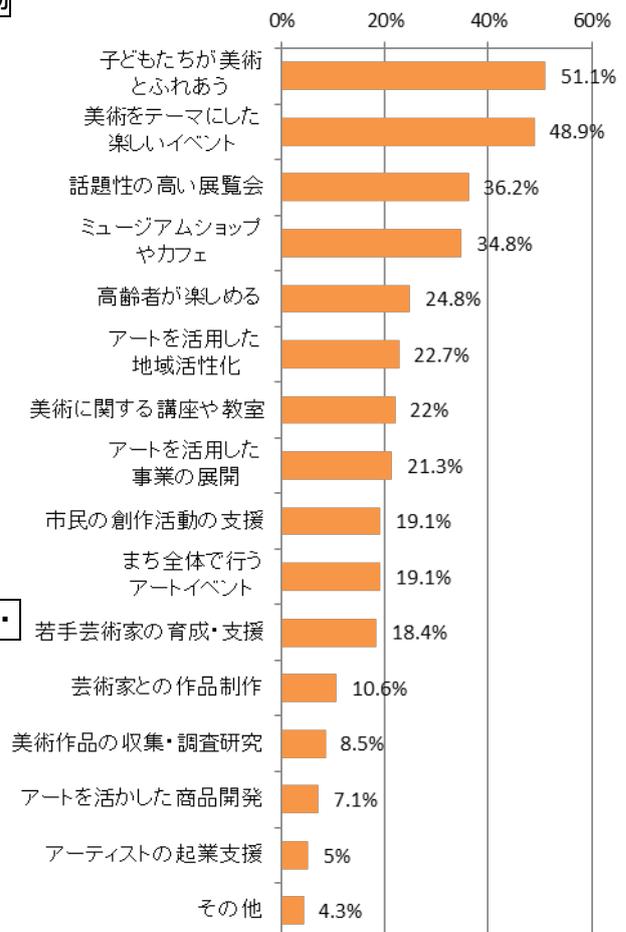
- ・「身近な場所で美術と出会え、気軽に楽しめる美術」(64.3%)に対する要望が非常に高く、すべての属性から求められている。次いで、「美術鑑賞の機会が充実している」(34.3%)、「子どもたちが美術にふれあう機会が充実している」(33.6%)、「芸術家が活発に活動している」(30.7%)。



[相模原市の美術に関する目指すべきイメージ]

[3] 相模原市の美術に関して重視すべき活動

- ・「子どもたちが美術とふれあう機会」(51.1%)が最も多く、次いで、「美術をテーマにした楽しいイベント」(48.9%)。「話題性のある展覧会」(36.2%)、「魅力あるミュージアムショップやカフェ」(34.8%)も多い。「子どもたち」「楽しいイベント」「ミュージアムショップ、カフェ」など、気軽に利用できる活動への要望が見られる。



[相模原市の美術に関して重視すべき活動]

[4] 相模原市の美術・美術館に対する意見・

要望

- ・市内の美術活動への支援に対する要望が多く挙げられた。特に情報発信に対する要望が多い。加えて、市内の美術活動の拠点となる施設の整備に対する要望も見られる。

(6)本市の課題の分析

本市に関わる基礎調査の結果をもとに、現状での課題を抽出した。

①市民ギャラリーの機能の課題

- ・市民ギャラリーの機能については、相模原芸術家協会との共催展や市民サークルによる作品展示など幅広く利用されており、利用ニーズが高い。ただし、市民ギャラリーの主催事業は年 1 回程度の自主企画展(収蔵作品展)やミニ展示コーナー「アートのポット」でのシリーズ展のみであり、発信力が弱い。

②アートラボはしもとの施設の課題

- ・アートラボはしもとは、平成 20 年に設置されたマンションギャラリーを活用し、平成 24 年 4 月に美術館整備までの準備施設として開館し、学生企画展やワークショップ、商店街との連携など、アートを活用した新たな事業展開を図り着実な成果を上げているが、マンションギャラリーという暫定の施設を利用しているため、活動の継続に当たっては、恒常的な施設整備が必要である。

③フォトギャラリー(写真美術館)の整備に係る課題

- ・フォトギャラリー(写真美術館)の整備については、第 4 次総合計画のリーディングプロジェクトとして位置づけて進めてきたが、同美術館の整備の前提となるソフト事業である「総合写真祭フォトシティさがみはら」を実施し、平成 27 年で 15 周年を迎えるなど、写真文化の発信と次世代を担う写真作品の収集に着実な成果を上げており、その事業の充実を図るため、拠点となる施設の整備が必要である。

④収蔵美術品の保存・公開に関する課題

- ・収蔵美術品は、市立博物館の美術品収蔵庫及び民間倉庫で保管しているが、いずれも収蔵品の保存スペースに余裕がなく、新たな収蔵場所の確保が必要である。また、展示の際には遠隔地から作品を運搬する必要があり、管理・保存や運搬費用における負担が大きい。
- ・展示スペースとしては市民ギャラリーがあるものの、貸しギャラリーとしてのニーズが高いため、絵画や写真などの収蔵美術品を常時展示・公開できる場がない。

⑤子育て世代・次世代の美術活動へのニーズに関する課題

- ・30～49 歳を中心とする子育て世代において、美術活動への参加意向が高いにもかかわらず、実際の活動に参加していない現状が見られる。また、相模原市の美術に関して重視すべき活動として、「子どもたちが美術とふれあう機会」が挙げられていることから、子どもたちとその親に対する美術とのふれあいを提供することが求められる。

⑥市内全体の美術活動の連携に関する課題

- ・市内各地区において、市民ギャラリーにおける各種展覧会などの実施や「藤野ぐるっ
と陶器市」や「相模大野アートクラフト市」など、長年にわたり自治体や民間による
活発な美術に関わる取組が行われているものの、市域全体の美術活動に対する体系的
な調査研究が十分でない状況である。現状での、美術に関わる活動、人材、資産を整
理し、それぞれの活性化や活用を図るための連携や支援が望まれる。

2 美術館を取り巻く近年の動向

美術や美術館を取り巻く社会的な動向について、多様な視点から分析を行った。

(1) 大規模アートイベントの活況

近年、自治体を中心となって、トリエンナーレ、ビエンナーレなどのアートに関わる大規模イベントを実施している事例が増加している。その主な目的と成果について、以下のように分析する。

■自治体を中心となって、大規模なアートに関わるイベントを展開している

→都市間競争の時代において、都市の魅力を高めるための戦略の一つ

- 大規模に実施する・・・話題性を高め集客につなげる
- 市民参画で行う・・・地域の課題の解決、地域の魅力を発信するきっかけ

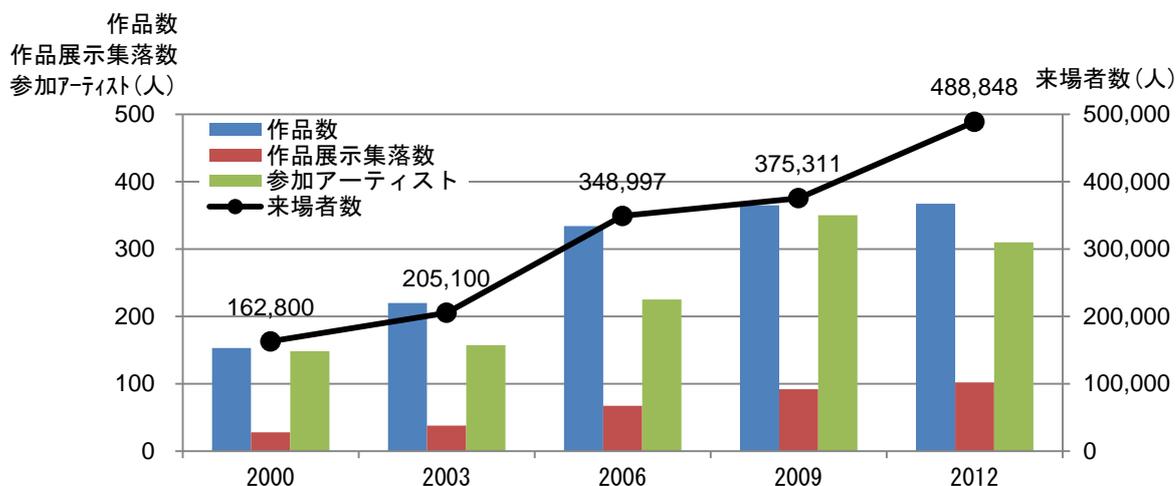
国内の主なアートイベント	
・札幌国際芸術祭	・神戸ビエンナーレ
・十和田奥入瀬芸術祭	・瀬戸内国際芸術祭
・越後妻有アートトリエンナーレ	・別府現代芸術フェスティバル混浴温泉世界
・水と土の芸術祭	・中房総国際芸術祭いちほらアート・ミックス
・中之条ビエンナーレ	・PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭
・ヨコハマトリエンナーレ	・さいたまトリエンナーレ
・あいちトリエンナーレ	

※詳細を次ページに掲載している。

■アートイベントの来場者数は増加傾向にあり、アートイベントの数も増加傾向にある

→アートイベントの持つ集客力、地域へもたらす波及効果が成果を上げている

[参考：大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ過去5回の推移]



○国内の主なアートイベント

名称	沿革	最新開催期間	主な会場	来場者数
札幌国際芸術祭	2014年～	2014年7月19日～9月28日 [72日間]	北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)、北海道庁赤れんが庁舎、モエレ沼公園、札幌市資料館、札幌大通地下ギャラリー500m美術館	478,200人
十和田奥入瀬芸術祭	2013年～	2013年9月21日～11月24日 [65日間]	十和田市現代美術館、旧笠石家住宅、水産保養所、奥入瀬インフォメーションhakocco、溪流の駅おいらせ、星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル、奥入瀬溪流館、十和田湖遊覧船 他	71,700人
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ	2000年～ これまで6回開催	2015年7月26日～9月13日 [50日間]	越後妻有里山現代美術館 [キナーレ] をゲートとし、6つのエリア(十日町、川西、津南、中里、松代、松之山)で構成	510,690人
水と土の芸術祭	2009年～ これまで3回開催	2015年7月18日～10月12日 [87日間]	市内全域 ・市民プロジェクト：市内全域 ・アートプロジェクト：信濃川下流域を中心とした市内各所	643,585人
中之条ビエンナーレ	2007年～ これまで5回開催	2015年9月12日～10月12日 [31日間]	群馬県中之条町 町内6エリア 37ヶ所	352,000人 (2011年)
ヨコハマトリエンナーレ	2001年～ これまで5回開催	2014年8月1日～11月3日 [89日間]	主会場：横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)	214,901人
あいちトリエンナーレ	2010年～ これまで2回開催	2013年8月10日～10月27日 [79日間]	・名古屋地区：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、中央広小路ビル、オアシス21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など ・岡崎地区：東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場	626,842人
神戸ビエンナーレ	2007年～ これまで5回開催	2015年9月19日～11月23日 [66日間]	神戸市中央区 メリケンパーク・神戸港エリア、兵庫県立美術館・ミュージアムロードエリア、三宮・元町エリア 他	383,339人
瀬戸内国際芸術祭	2010年～ これまで2回開催	春2013年3月20日～4月21日 夏2013年7月20日～9月1日 秋2013年10月5日～11月4日 [計108日間]	直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島[春のみ]、本島[秋のみ]、高見島[秋のみ]、粟島[秋のみ]、伊吹島[夏のみ]、高松港・宇野港周辺	1,070,368人
別府現代芸術フェスティバル 混浴温泉世界	2009年～ これまで2回開催	2015年7月18日～9月27日 [72日間]	大分県別府市内各所(中心市街地、浜脇エリア、鉄輪エリア、別府国際観光港エリア)	約60,000人
中房総国際芸術祭 いちはらアート・ミックス	2014年～ これまで1回開催	2014年3月21日～5月11日 [52日間]	・メイン会場：千葉縣市原市南部地域(小湊鐵道上総牛久駅から養老溪谷駅の間) ・連携会場：中房総エリア(茂原市、いすみ市、勝浦市、長柄町、長南町、一宮町、睦沢町、大多喜町、御宿町)	87,025人
PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭	2015年～ これまで1回開催	2015年3月7日～5月10日 [65日間]	京都市美術館、京都府京都文化博物館別館、堀川団地、京都芸術センター、河原町塩小路周辺、鴨川デルタ、大垣書店烏丸三条店、京都 BAL	264,218人

(2) 地域活性化やまちづくりに寄与する美術館

アートの持つ力を生かして、地域の活性化やまちづくりを推進している美術館やアートプロジェクトが見られる。

美術館での取組	国内の主なアートプロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ○観光の活性化に寄与する美術館 <ul style="list-style-type: none"> ・金沢 21 世紀美術館 ・十和田市現代美術館 ○市民の活動の活性化に寄与する美術館 <ul style="list-style-type: none"> ・せんだいメディアテーク ・みやざきアートセンター ○地域の導入拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・八戸ポータルミュージアム ・アーツ前橋 	<ul style="list-style-type: none"> ・取手アートプロジェクト ・カフェ・イン・水戸 ・ヒミング ・Breaker Project ・ゼロダテアートプロジェクト ・広島アートプロジェクト ・北本ビタミン ・KOTOBUKI クリエイティブアクション ・黄金町バザール ・金沢アートプラットホーム 2008 ・すみだ川アートプロジェクト ・TERATOTERA(テラトテラ)

○国内の主なアートプロジェクト

名称	時期	概要
取手 アートプロジェクト	1999 年～	取手市、東京藝術大学、市民の三者共同で取り組むアートプロジェクト。
カフェ・イン・水戸	2002 年～	水戸芸術館が主導して街中で作品を展示するグループ展。
ヒミング	2003 年～	氷見市を舞台に、アーティストと市民により、アートの創造性によって氷見を見つめ直し、この場ならではの価値を見いだす活動。
Breaker Project	2003 年～	大阪市による事業。社会とアートをつないでいくことをテーマに、新世界をベースに市内各所で展開。
ゼロダテ アートプロジェクト	2007 年～	大館市出身のクリエイターが中心となり、東京と大館で多様な活動(展覧会、空き店舗の活用、イベントなど)を展開。
広島 アートプロジェクト	2007 年以降、 毎年実施	広島市立大学芸術学部現代表現領域の教員と学生が中心となって、地域展開型の展覧会を開催。
北本ビタミン	2008 年～	アーティストによる「キタミン・ラボ舎」と市民による「Kitamoto Design Project」が共同で実施する活動。
KOTOBUKI クリエイ ティブアクション	2008 年～	横浜市による取組。ドヤ街として知られる寿町にアーティストが滞在しながら創作活動やアートプロジェクトを展開。
黄金町バザール	2008 年以降、 毎年開催	横浜市日ノ出町駅から黄金町駅の高架下を中心に「アートによるまちづくり」をテーマに毎年開催しているアートイベント。
金沢アート プラットホーム 2008	2008 年 10 月 4 日 ～12 月 7 日	金沢 21 世紀美術館の主催事業として開催。金沢のまちを舞台に、市民とアーティストによるプロジェクト型展覧会を開催。
すみだ川 アートプロジェクト	2009 年～	アーティストと市民との協働により、隅田川の再生を視野に入れた長期的・継続的な活動。
TERATOTERA (テラトテラ)	2010 年 2 月～	東京杉並・武蔵野地域を舞台に展開する地域密着型アートプロジェクト。

(東京アートポイント計画「日本型アート・プロジェクトの歴史と現在」より)

(3) 美術館建築に対する新たな傾向

① 話題性の高い建築による集客力の拡大

まちの顔となるようなデザイン性の高い美術館の設置により、集客の目玉となって地域の活性化に寄与する事例が多く見られる。

[建築が話題になった主な美術館の入館者数]

館名	開館年	設計者	入館者数
金沢 21世紀美術館	2004年	妹島和世＋西沢立衛／SANAA	176万人(2014年度)
地中美術館	2004年	安藤忠雄建築研究所	14万人(2014年度)
富弘美術館	2005年	有限会社 aat ＋ ヨコミゾマコト建築設計事務所	15万人(2012年度)
青森県立美術館	2006年	株式会社青木淳建築計画事務所	37万人(2013年度)
十和田市 現代美術館	2008年	有限会社西沢立衛建築設計事務所	13万人(2014年度)
富山市 ガラス美術館	2015年	隈研吾建築都市設計事務所	2015年8月22日～11 月末現在で約8万人
大分県立美術館	2015年	株式会社坂茂建築設計	開館204日で 50万人を突破

② 設計者選定の傾向

市立美術館においては、プロポーザル方式と設計協議方式による選定が主流となっている。さらに、設計者選定のプロセスを公開し、地域住民の意見の導入を重視するケースも多く見られ、結果として、施設の認知度の向上、美術館に対する愛着の醸成などにつながっている。

[設計者選定段階で住民などの意見を導入している事例]

館名	開館年	選定プロセス
富弘美術館 (改築)	2005年	新富弘美術館建設国際設計競技 ・公募による国際設計競技 ・1次審査通過作品を一般公開。公開ヒアリングを行い、公開で審査して選定
アーツ前橋 (リノベーション)	2013年	前橋市美術館(仮称)プロポーザルコンペティション ・公募による国内設計競技 ・1次審査を通過した5者による公開プレゼンテーションを行い、最終審査により選定
滋賀県新生美術館 (整備中)	2019年度 (予定)	・公募型プロポーザル。審査の過程の公開と参加による「県民参加型」を目指している ・第一次審査(書類審査)として5者以内を選定するに当たり、参加表明書の一部(提案資料)を公開して意見を募る県民アンケートを実施 ・第二次審査においても、県民アンケートやプレゼンテーションの公開などを行う予定

③都市型立地によるまちとのつながりの重視

近年、美術館の設置場所として都市型立地を選定する事例が増えている。再開発ビル内に設置されている事例（静岡市美術館、福岡アジア美術館など）、郊外に設置された美術館に加えて駅前や中心市街地などに分館を設置する事例（北九州市美術館分館、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館・ステーションギャラリー）も見られ、より多くの利用者に気軽に利用してもらうことにより、美術館としての存在感を拡大する効果が期待されている。

[都市型立地の主な美術館]

館名	開館年	立地の特徴	併設する複合施設
福岡アジア美術館	1999年	中心市街地の再開発ビル内に設置	ホテル、オフィス、商業施設など
うらわ美術館	2000年	再開発ビル内に設置	ホテル、カルチャーセンターなど
熊本市現代美術館	2002年	中心市街地の複合ビル内に設置	ホテル、カルチャーセンターなど
八王子市夢美術館	2003年	複合施設内に設置	住宅
北九州市美術館分館	2003年	郊外に立地する本館に加えて、中心市街地の商業ビル内に分館を新設	ショッピングモール、シネコン、芸術劇場、NHK放送局、新聞社、大学など
金沢 21 世紀美術館	2004年	中心市街地・観光客が多く集まるエリアに設置	—
神戸ゆかりの美術館	2007年	中心市街地・観光客が多く集まるエリアの複合施設内に設置	神戸ファッション美術館内に設置
静岡市美術館	2010年	駅前再開発ビル内に設置	結婚式場、オフィス、ショップ、レストランなど
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館・ステーションギャラリー	2012年	郊外に立地する本館のサテライトとして、駅に分館を設置	※当初は本館リニューアルの代替施設として機能。将来的には2館体制
アーツ前橋	2013年	中心市街地の商業施設のリノベーション	映画館など
富山市ガラス美術館	2015年	中心市街地の複合施設内に設置	図書館、銀行など

④環境に配慮した施設整備

美術館は、貴重な資料を保護するための空調や展示照明など、エネルギーの使用量が大きい施設であるため、省エネルギーへの配慮やメンテナンスフリーの推進に積極的に取り組むことにより、大きな効果が期待できる。

一方で、平成27年7月に成立した「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」に基づき、美術館を含む2,000㎡以上の特定建築物に対するエネルギー消費性能基準への適合義務が課せられることとなり、省エネルギー性能の向上が求められている。

こうした中、既存美術館では、LED照明への移行が進められており、省エネルギー化、メンテナンスの省力化が図られている。

また、従来、害虫対策として実施していた燻蒸に代わり、虫菌害を防除する対策としてIPM(総合的有害生物管理)が導入されており、IPMを行いやすい施設づくりが求められる。具体的には、害虫が侵入しにくい開口部の形状、虫菌害のモニタリング・点検が容易に実行可能なしつらえ、清掃しやすい内装仕上げやディテールなどの対策が必要である。

さらに、空調に特に配慮すべき収蔵庫において、高气密・高断熱化を実現することにより、空調負荷の軽減を図ることが可能となる。

(4) 設置・運営などに関わる市民参加の拡大

開かれた美術館を目指し、市民参加の拡大を図るため、多様な参画の仕組みや機会を設けている事例が見られる。

①開館前からの市民参加

- ・金沢 21 世紀美術館(平成 16 年開館)：平成 10 年から 18 件のシンポジウムやワークショップなどを実施。周囲の商店街との共同イベントとして、市内の学校や施設に収蔵作品を展示する「出前美術館」を開催。
- ・アーツ前橋(平成 25 年開館)：平成 22 年から 23 件のトークイベント、ワークショップ、展覧会、芸術家の長期滞在制作、アートスクールなどを実施。アートスクールでは、市内の情報をまとめたフリーペーパーや年表を作成し、開館後に活用。
- ・大分県立美術館(平成 27 年開館)：平成 24 年、地元商店街に「県立美術館まちなか支局」を開設。美術館関連の情報発信を行い、地域との連携を深めた。毎月トークイベントやワークショップなどを実施し、開館までに 50 件以上開催。

②友の会への参加

- ・世田谷美術館友の会：来館した幼児から高校生までのグループのリーダーとなって展覧会や美術館の案内をする「鑑賞リーダー」を育成。
- ・豊橋市美術館友の会：作品の前で音楽鑑賞をする「ミュージアム・コンサート」や、美術評論家などとの研修旅行、美術講義などを企画、実施。

③管理運営の補助を行うボランティアとしての参画

- ・長崎県美術館アートボランティア：来館者誘導案内、広報物発送作業、図書登録作業、書庫資料整理、新聞切り抜き、館内の清掃などを行う。
- ・岐阜県美術館ボランティア：美術館の受付、会場内の清掃・監視、ポスターの掲示、広報物発送作業などを行う。

④管理運営への参画を行うボランティアとしての活動

- ・一般社団法人北海道美術館協力会：北海道内の美術館などの事業に協力する。事業部、広報部、売店部、解説部、資料部、研修部、特別活動部からなる。
- ・千葉市美術館ボランティア：最寄り駅から美術館までのアクセスや館内の動線について、美術館利用者の目線から改善方法を提案。

⑤アーティストとの共同プロジェクト

- ・瀬戸内国際芸術祭：アーティストの椿昇が高松市民と協働して「高松うみあかりプロジェクト」を実施。
- ・千葉市美術館「アート×教育=?」：アーティストの岡田裕子と山本高之とともに、参加者が約 1 年間をかけて作品を制作、展示。

⑥イベントの企画・運営

- ・横須賀美術館ボランティア：月2回ミーティングを行い、「空想動物園」、「シャボン玉仮面の夕べ」などのイベントを年間3件程度企画・実施。
- ・千葉市美術館ボランティア：所蔵作品による展覧会の企画、展覧会の内容に応じたワークショップを発案・運営し、地域と美術館をつなぐ活動を行う。

⑦サポーター活動

- ・大分県立美術館まちなか支局：大分県立美術館の情報、大分県の芸術文化活動やアートイベントに関する情報などを発信する施設。地元商店街やボランティアが活動を支援。

(5) 美術館自体や企画展におけるテーマの広がり

近年、マンガ・アニメやゲームなどをテーマにした展覧会が数多く開催され、集客力を持つイベントとして実績をあげている。また、デザインをテーマにした展覧会なども開催されており、テーマの広がりが見られる。

①マンガ・アニメ・ゲームをテーマにした展覧会

- ・「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム展」(国立新美術館ほか1館)：手塚治虫の死後である1989年から現在までのおよそ25年間の日本のマンガ、アニメ、ゲームを総合的に展望した。入場者数9万人。
- ・「スタジオジブリ・レイアウト展」(福岡アジア美術館ほか14館)：スタジオジブリ制作のアニメ原画約1,300点を展示。入場者数12万人、福岡アジア美術館の開館以来、最高の入場者数。
- ・「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち展」(八王子市夢美術館)：人形アニメ「チェブラーシカ」の創作過程やキャラクターとしてのあゆみを、作品を通して多面的に紹介した展示。入場者数1万2千人。同美術館の開館以来、最高の入場者数。
- ・「エヴァンゲリオン展」(松屋銀座ほか11館)：アニメ作品「エヴァンゲリオン」にまつわる資料1,300点を展示。入場者数15万人。同館の開館以来、最高の入場者数。
- ・「尾田栄一郎監修 ONE PIECE 展」(森アーツセンターギャラリー)：漫画作品「ワンピース」連載15周年を記念した展覧会。入場者数51万人、同ギャラリーの開館以来、最高の入場者数。

②建築をテーマにした展覧会

- ・「建築、アートが作り出す新しい環境—これからの“感じ”展」(東京都現代美術館)：建築の普遍的な創造力を、14カ国28組の建築家・アーティストの活動と作品を通して展示空間全体で紹介。入場者数3万人。
- ・「3.11以後の建築展」(金沢21世紀美術館)：東日本大震災を受けて、25組の建築家の震災以降の取組を紹介した展示。入場者数19万5千人。

③デザインをテーマにした展覧会

- ・「20世紀のポスター[タイポグラフィ]—デザインのちから・文字のちから展」(東京都庭園美術館)：約110点のグラフィックデザイナーやアーティストのポスター作品を展示。
- ・「現代のプロダクトデザイン—Made in Japan を生む展」(東京国立近代美術館)：陶磁器、テキスタイル、漆器、木竹工品、金工品といった日本の手仕事の現代作品を紹介。入場者数は2万2千人。
- ・「デザインあ展」(21_21 DESIGN SIGHT)：NHK Eテレの教育番組「デザインあ」を発展させた企画。入場者数22万人。
- ・「フィンランドのくらしとデザイン～ムーミンが住む森の生活展」(兵庫県立美術館ほか4館)：時代と地域を超えるグッド・デザインを生み出してきたフィンランドのプロダクト

を 350 点展示。入場者数は 11 万 5 千人、5 館の総入場者数は 24 万人。

④ファッションをテーマにした展覧会

- ・「**拡張するファッション展**」(水戸芸術館)：元資生堂の林央子による書籍『拡張するファッション』を基とした展覧会。
- ・「**Future Beauty 日本ファッションの未来性展**」(東京都現代美術館)：日本ファッションが持つ創造性と、その力強いデザインに潜む文化的背景に焦点をあてた展示。入場者数 5 万 5 千人。

⑤サブカルチャーをテーマにした展覧会

- ・「**美少女の美術史展**」(青森県立美術館ほか 2 館)：漫画、アニメ、映画、文学、美術、商品広告などに見られる少女のイメージを紹介する展覧会。入場者数 3 万人。
- ・「**成田亨 美術／特撮／怪獣展**」(福岡市美術館ほか 2 館)：彫刻、絵画、デザイン、イラスト、特撮美術と多岐にわたって活躍した成田亨の作品 700 点以上を展示。入場者数 2 万人。

⑥絵本をテーマにした展覧会

- ・「**ミッフィー展**」(青森県立美術館ほか 6 館)：ミッフィー誕生 60 周年を記念した展覧会。原画やスケッチ、制作資料など約 300 点を展示。
- ・「**トーベ・ヤンソン展 ～ムーミンと生きる～展**」(そごう美術館ほか 4 館)：フィンランド国立アテネウム美術館の展示を再構成。入場者数 13 万人。

(6) カフェやショップなどの利用者サービスの拡充

美術館を訪れる目的の一つとしてミュージアムショップやカフェ、レストランなどを利用するケースも見られ、こうした機能の充実に取り組んでいる美術館が見られる。さらに、全ての来館者に快適に過ごしてもらえるよう、多くの美術館が休憩機能の充実に取り組んでいる。

① サービス機能の拡充

- ・佐賀県立美術館 cafe TRES：佐賀県立美術館拡大リニューアルにより、カフェレストランをオープン。
- ・金沢 21 世美術館 Fusion21：「美術館で第 2 の感動」をコンセプトに、地元食材を使用した料理を提供するカフェレストラン。
- ・横須賀美術館 ACQUA MARE：地元食材や魚介類を使用した料理を提供するイタリアンレストラン。

② 休憩機能の充実

- ・熊本市現代美術館：美術、衣食住に関する書籍や漫画の図書室「ホームギャラリー」、幼児から小学生を対象に五感に働きかける遊具や絵本を揃えた「子育てひろば・キッズサロン」、美術に関連する様々な活動を行うアトリエ「キッズファクトリー」がある。
- ・静岡県立美術館：2 時間利用可能の「託児・授乳室」（無料）、ベビーカー貸出、バリアフリー対応を行う。
- ・金沢 21 世紀美術館：有料の託児サービス、キッズスタジオ、キッズ用プログラムの用意、ベビーカー貸出、バリアフリー対応を行う。

③ ミュージアムショップ

- ・NADiff：株式会社ニューアートディフュージョンが運営するミュージアムショップ。東京都現代美術館、東京都写真美術館、東京オペラシティギャラリー、水戸芸術館、愛知芸術文化センター内にそれぞれミュージアムショップを展開。
- ・新潟市美術館ミュージアムショップ ルルル：新潟のクリエイト集団 hickory03travelers がデザインと企画・経営を担当。
- ・ポーラ美術館ミュージアムショップ：館内 2 か所にあり、2,000 アイテムを用意。地元の商品やオリジナルグッズを多数そろえる。
- ・東京都美術館ミュージアムショップ：「+CREATION(プラスクリエーション)」をコンセプトに店舗面積を 2.5 倍に拡張リニューアル。

3 先進事例調査

(1) 美術館の基礎機能に関する事例

① 静岡市美術館

○ポイント：複合施設内に設置された公開承認施設

- ・複合施設内では、ビル内での火災やそれに伴うスプリンクラー散水による上階からの漏水などリスクに対する対応が求められる。その対策として、展示室と収蔵庫などの文化財・美術作品などが配置されるスペースは、天井を二重スラブとしている。
- ・複合施設内においては、資料専用の動線の確保、資料動線の短縮を図ることが重要な課題となる。
- ・駅前の立地を生かし、市民の憩いの場としての利用を促進するため、エントランスホールでは、企画展を行っていない期間でもイベントや作品展示を行うアートスペースとして活用できる空間としている。また、カフェとショップを併設し、広く一般に開放している。



② 八戸ポータルミュージアム・はっち

○ポイント：中心市街地にぎわい創出、文化芸術振興、ものづくり振興、観光振興・フィールドミュージアム推進、情報発信などの多様な機能を担う交流施設

- ・新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指すことを目的としている。
- ・主な機能は、ギャラリーなど多目的に利用できる「はっちひろば」、放送スタジオ、ミュージアムショップ、カフェやレストラン(5店舗)、市内の歴史・文化・自然・産業などをテーマ毎に紹介する展示ブース(各階に点在)、シアター、リビング、音のスタジオ、和のスタジオ、食のスタジオ、ものづくりスタジオ(アーティストが制作や販売を行うブース)、子どもの遊び場「こどもはっち」、工作スタジオ、アーティストインレジデンス(共同スタジオ、共同キッチン、レジデンス5室)など。



(2) 今後の美術館に新たに求められる機能や課題に関する事例

① 静岡市クリエイター支援センター

- ポイント：クリエイターの育成、コンテンツ産業の振興及びクリエイターと地域産業の連携などを推進する拠点
- ・様々なイベントやワークショップ(教育普及)活動を通じて、芸術、科学技術、クリエイティブ産業の分野で現代の創造力溢れる作品を紹介するとともに、国内外のクリエイターとのコラボレーションの活性化と静岡の産業の発展をめざす。
- ・旧小学校を活用し、クリエイター育成室 10 室、研修室、作業室、映像編集室、印刷室、会議室、展示コーナー、ギャラリー、商談室などの機能を設置し、クリエイターの育成支援を行う。
- ・プロのアーティストと入居しているクリエイターによる展覧会やイベント、公募展などを開催するほか、市内での展覧会やイベントをプロデュース。

② アーツ前橋

- ポイント：美術館を核として市内で展開するアートプロジェクトを開催
- ・「地域アートプロジェクト」では、美術館「アーツ前橋」を拠点とし、まちなかエリアに点在する広場、スタジオ、サロン、銭湯などにおいて、6 名の招へいアーティストによるアートプロジェクトを展開。一般市民の参加によるワークショップや参加型アートプロジェクトなどが行われた。

③ 金沢 21 世紀美術館

- ポイント：小学生を美術館に招待するプログラム「ミュージアム・クルーズ」
- ・市内の小学 4 年生約 4,500 名が美術館を訪問し、美術作品を鑑賞するプログラムで、毎年実施している。下見、準備、事前／事後学習、本番、フォローアップの過程があり、学校教員、美術館スタッフ、ボランティア「クルーズ・クルー」の協働で行われる。
- ・検討委員、教員、美術館のキュレーターと教育普及チームの参画により、展示に合わせたプログラムが作成され、毎年、改善に向けた検討が行われている。

④ 埼玉県立近代美術館

- ポイント：多彩な学校向けプログラム
- ・「ステップ鑑賞」は、事前学習と美術館での作品鑑賞のプログラムで、専用の学習キットが用意されている。
- ・その他、「教材・鑑賞キット貸出」「教員美術講座」「先生のための鑑賞授業ヒント講座」「研修協力」「美術館利用研究会」など、多様な学校に対する支援メニューを開発。

(3) 施設整備の在り方に関する事例

①神奈川県立近代美術館〈葉山館〉

○ポイント：PFI方式を導入した美術館整備

- ・事業方式は、BOT（ビルド・オペレート・アンド・トランスファー）方式。事業者が葉山新館の建設などを行い、30年間所有、維持管理業務などを遂行した後、県に所有権を移転する。
- ・事業形態は、サービス購入型。ただし、レストラン、ミュージアムショップ、駐車場は独立採算型。
- ・事業分担については、県は展覧会の企画・開催、作品の収集・保管などの業務、PFI事業者は施設整備（バスベイ、歩道整備を含む）、維持管理、修繕の他、美術館支援業務（レストランやミュージアムショップ、駐車場の運営、美術情報システムの整備・運用支援）、備品など整備業務（葉山新館備品整備、美術作品など移転、葉山新館サイン作成）など。

②福岡アジア美術館

○ポイント：駅と直結した複合施設における美術館整備

- ・博多リバレインは、駅と直結した再開発エリアで、リバレインセンタービル、博多座西鉄ビル、ホテルオークラ福岡ビルの3棟で構成。
- ・福岡アジア美術館があるリバレインセンタービルは地上11階、地下4階のビルで、美術館のほかに、オフィス、福岡アンパンマンミュージアムinモール、家具店ショールーム、商業施設、ホール、カルチャーセンターなどがある。美術館は7・8階にあり、延床面積は9,101 m²。1階に美術館ロビーを設置し、直通エレベータにより美術館へアクセスする。

(4) 運営体制に関する事例

① 横浜美術館

- ポイント：個人参加型芸術支援プログラム、企業の支援によるアートプログラムの開催
- ・「横浜美術館コレクション・フレンズ」は、横浜美術館の所蔵作品（横浜美術館コレクション）の保存・修復・展示を支援するための個人参加型芸術支援プログラム。一口10,000円で、各企画展招待券、特別イベント「コレクション・フレンズ ギャラリートーク（学芸員の解説付き鑑賞会）」や「コレクション・フレンズ レクチャー&交流会」への招待、ミュージアム・カフェ割引などの特典が受けられる。
- ・「HEART to ART」は、法人と美術館が協働して、芸術の発展を推進するプログラム。展覧会の開催、ビジターサービスの向上、アトリエ事業の充実など、横浜美術館で行われる様々な取組に支援するもので、年間20万円から参加可能。館内「HEART to ART ボード」への社名掲出、展覧会鑑賞券の提供、参加企業向け特別鑑賞会の提供、参加企業と横浜美術館のコラボレーション企画実施などの特典が受けられる。

② 静岡県立美術館

- ポイント：美術館における評価システム
- ・「静岡県立美術館自己評価システム」は、県立美術館の使命及び目標などを明らかにして事業活動に取り組み、その成果を自己評価することを通して、使命及び目標の達成を図ることを目的としたもの。(1)使命、(2)達成目標及び館長公約、(3)5つの戦略目標、(4)18の戦略(5)評価指標(定量・定性)、(6)アクションプラン(行動計画)について、年度単位でPDCAサイクルによる目標管理を行う。
- ・自己評価の結果に対して、生活・文化部に設置する「静岡県立美術館第三者評価委員会」において外部評価を行い、その結果を今後の戦略目標及び事業活動の見直しなどに反映する。

Ⅲ

基礎調査を踏まえた
「相模原市美術館基本構想」について

■基礎調査を踏まえた「相模原市美術館基本構想」について

「相模原市美術館基本構想」は、基礎調査結果に基づき、以下の項目を踏まえた策定を行い、本市に相応しい美術館整備に向けた取組を進める。

1

「相模原市美術館基本構想(答申)」の尊重

平成26年2月に提出された「相模原市美術館基本構想(答申)」を尊重し、「相模原市美術館基本構想」を策定する。

2

本市の美術文化の着実な調査・研究及び貴重な収蔵美術品を後世に継承するための適切な収集・保存・活用

市内の多くの著名なアーティストの活動、造形「さがみ風っ子展」やフォトシティさがみはらの取組など美術に関わる実績があるが、その体系的な調査・研究が不足しているとともに、相模原市収蔵美術品の保管についても収蔵スペースが十分でない状況にある。また、絵画や写真などの収蔵美術品を常時展示・公開できる場がない。こうした課題に対応するため、総合的な機能を持つ美術館整備により、本市の美術文化の着実な調査・研究の実施及び適切な収集・保存を行うとともに、収蔵美術品の活用を図る。

3

美術館の基本的な機能と新たに求められる役割

美術館は、収集保存、展示といった基本的な機能に加え、アートイベントの実施や地域活性化やまちづくりに寄与する事業、企画展のテーマを広げるなど観光や集客などを意識した新たな役割が求められてきている。本市の美術館においても他館にない先進的かつ斬新な企画展を実施し、都市の魅力や個性を高める新たなアートの創造が求められる。

4

アートに関わる多様な資源をつなぎ、 本市及びその周辺でアート活動を展開する基盤整備

市内の各地で官民を問わず活発なアート活動が行われているものの、市域全体のアート活動の連携は十分でない状況にある。市内及び周辺に美術系大学が集積するなど美術環境に恵まれた地域特性を生かし、まちづくり、ひとづくり、ものづくりに寄与するため、美術館内にとどまらず、本市及びその周辺のアートに関わる様々な活動や資源をつなぎ、アート活動の多様な展開を実現するための基盤づくりを進める。

5

本市の未来に向け、次世代を担う子どもたちが アートと触れ合う機会の拡充

アートラボはしもとの利用者の感想や市民のアンケート結果などから子育て世代・次世代のためのアート活動に対するニーズが高いことが明らかになった。本市の美術館においては、本市の夢ある未来の基盤をつくりあげるためにも、次世代を担う子どもたちがアートとふれあう機会の創出を特に重視する。

6

本市の美術館整備の方向性

本市に初めて整備する美術館は、調査研究、収集保存、展示、教育普及など必要な機能を備えた総合的なアートの中核拠点としての役割が必要であるとともに、今後の美術館に求められる新たな役割である文化創造、発信、交流促進などを行う新たなアートを創造するイノベーション拠点としての役割も必要である。

現在本市においては、橋本・相模原の両駅周辺を首都圏南西部の広域交流拠点として一体的な整備を進めており、特に相模原駅周辺においては、文化・行政が集積する中枢業務拠点としての整備が予定されているため、そこで求められる文化創造機能については、総合的なアートの中核拠点としての美術館が担う。

また、これまで美術館整備の先行的・実験的施設として着実な成果をあげてきたアートラボはしもとについては、その活動の継続と更なる拡充が必要であるため、同立地場所で培った実績やネットワークの活用を図るため、現在の場所において新たなアートを創造するイノベーション拠点としての再整備を行う。

IV

「相模原市美術館基本構想」の
実現に必要な検討・推進事項

1 実現に向けた検討

美術館の整備を進めるためには、早急に専門的な検討組織の構築や、基本計画の策定などに取り組む必要がある。

①検討組織の構築

「相模原市美術館基本構想」の実現に向けた基本計画の検討に当たっては、専門有識者や市民、アーティストなどの多様な参画による外部検討委員会を設置するとともに、学芸員などの専門スタッフを含めた美術館開設準備室などの実務組織の構築を行い、本市に相応しい美術館整備に向けた検討と実績や経験を積むために美術館で行う事業の先行実施などを行っていくことが必要である。

<主要都市の美術館における参考データ※>

※「主要都市の美術館」とは、政令指定都市、中核市、人口20万人以上の都市を対象として実施した地方行財政調査会による「都市の美術館の設置・運営に関する調べ(2015<H27>年10月現在)」の結果をもとに、美術館を設置している都市において、中心的な役割を果たしている美術館48館を抽出したものである。なお、設問によって48館全てが回答していない場合もあり、回答の合計が48にならないことがある。

●美術館整備のための検討組織

- ・主要都市が設立した美術館48館のうち、整備のための検討組織を設置したのは33館。そのうちの半数近くが、計画段階において設置している。

[検討組織の設置時期別の施設数]

設置時期	設置した				合計	設置せず
	計画段階	設計段階	既存の 所管部署	不明		
館数	14	4	4	11	33	15

●美術館整備のための準備組織

- ・主要都市の美術館48館のうち、整備のための準備組織を設置した施設は29館。
- ・計画段階か設計段階で設置した事例が多い。
- ・「課」相当の組織規模で対応した事例が多い。

[設置準備組織の設置時期別の施設数]

設置時期	設置した					合計	設置せず
	計画 段階	設計 段階	工事 段階	竣工～ 開館前	不明		
館数	8	10	6	2	3	29	19

[設置準備組織の組織規模別の施設数]

相当組織	設置した					合計	設置せず
	部	課	室	係	不明		
館数	4	9	1	3	12	29	19

②基本計画の策定

基本構想に基づき、具体的な事業活動の展開を検討するとともに、事業活動を行う上で必要な設備や施設について具体的に検討を行うことが求められる。次のステップとなる建築設計・展示設計を進める上で、必要な諸条件を整理しておく必要がある。

[基本計画の項目例]

館名	アーツ前橋(前橋市)	東広島市美術館(東広島市)
基本計画 の名称	「前橋市における美術館基本計画」 (平成 22 年 11 月)	「東広島市美術館基本計画(案)」 ※平成 27 年 12 月パブリックコメント実施用
項目	第 1 章 立地と環境 1. 位置 2. 面積 3. 構造 第 2 章 前橋市における美術館の基本的な考え方 1. 施設の目的 [ミッション] 2. 理念 [コンセプト] 3. 事業活動の基本方針 第 3 章 事業活動計画 1. 美術環(ネットワーク)事業 2. 文化の担い手づくり事業 3. 新たな文化の創造事業 第 4 章 運営体制計画 1. 管理運営の基本方針 2. 運営体制 3. 館名 4. 美術館開設準備 第 5 章 施設整備計画 1. 施設整備の基本方針 2. 諸機能の概要 3. 機能構成図 用語解説 委員会概要	第 1 章 美術館に求める機能 1. 基本構想の概要 2. 美術館に求める機能 第 2 章 事業展開及び施設構成 1. 事業展開(事業内容、施設構成) (1) 展示公開機能 (2) 収集保管機能 (3) 教育普及機能 (4) 調査研究機能 (5) 情報発信機能 (6) 交流連携機能 (7) その他(管理機能等) 2. 施設規模 3. 配置計画 (1) 諸室の配置 (2) 文化財公開施設としての配置計画 第 3 章 組織・運営 1. 組織機構 (1) 機関連携 (2) 機能連携 (3) 人との連携 第 4 章 整備概要 1. 敷地条件 (1) 建設予定地 (2) 地域地区 (3) 周辺道路 (4) 西条中央公園について 2. 整備費・運営費の試算 (1) 建設費 (2) 運営費 3. 整備スケジュール

2 拠点施設の整備

基本計画に基づき拠点となる美術館を整備するためには、設計(基本設計、実施設計)を経て、工事(建築工事、展示工事)を行う必要がある。さらに、開館までに適切な養生期間(鉄筋コンクリート躯体からアルカリ性ガスや水分などの発生がなくなるまでの期間)を設け、開館準備を行った上で開館することとなる。

また、近年ではPFI方式による整備を行う事例も見られる。

①建築設計者の選定

建築設計者の選定方法としては、設計者の創造性、技術力、経験などを適正に審査する必要があるため、プロポーザル、コンペなどの手法が多く用いられている。

さらに、選定のプロセス自体を公開する事例(P.19参照)も見られ、市民参画による施設づくりの推進や設計段階からの認知度向上が期待できる。

<主要都市の美術館における参考データ※> ※地方行財政調査結果を集計

- ・主要都市が設立した美術館 48 館のうち、プロポーザル方式によるものが多い。

[建築設計者の選定方法]

選定方法	市で実施	特命・随意契約	競争入札		プロポーザル		設計競技		その他	不明	合計
			一般	指名	公募	指名	公募	指名			
館数	1	4	2	1	6	3	1	5	2	23	48

②設置・運営の基金

美術館の整備に当たり、基金を設置するケースも見られる。また、近年では、整備や運営に対する寄附を募集する事例が増えている。

<主要都市の美術館における参考データ※> ※地方行財政調査結果を集計

- ・主要都市の美術館 48 施設のうち、基金を設置していた施設は 22 館で、うち 2 館では廃止されている。また、美術品取得を目的としたものが多い。

[基金の設置目的別の施設数]

設置目的	美術品等取得	運営・文化振興	建設	合計
館数	16	4	2	22

③ P F I 方式の導入

民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設などの設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法として、P F I を導入する事例が見られる。

導入に当たっては、導入可能性調査を実施し、効果を検証する必要がある。

[P F I を導入している主な美術館・文化施設など]

	名称	延床面積	機能	整備概要	主な業務	金額 (端数切り上げ)	事業方式
1	いわき芸術文化交流館アリオス	27,547 m ²	展示室、ホール・劇場、市民活動室、キッズルーム、ミュージアムショップ、レストラン など	新築	・設計・建設・工事監理 ・維持管理	181 億円	BOT 方式
				改修	音楽館、公園、ホール ・改修設計・工事監理 ・維持管理		
2	稲城市立 i プラザ	4,200 m ²	展示室、ホール、ライブラリー、プレイルーム など	新築	・設計・建設・工事監理 ・維持管理	70 億円	BOT 方式
3	神奈川県立近代美術館	葉山分館	展示室、ライブラリー、ミュージアムショップ、カフェ など	新築	・施設整備・維持管理 ・美術館支援 ・備品など整備 ・施設賃貸・所有権移転	158 億円	BOT 方式
		鎌倉館	展示室、ミュージアムショップ、レストラン	—	・維持管理		
		鎌倉別館	展示室	—	・維持管理		
4	静岡市清水文化会館マリナート	11,535 m ²	ホール、展示室、練習室 など	新築	・既存施設の解体 ・設計・建設 ・備品設置 ・維持管理・運営	126 億円	BOT 方式
5	穂の国とよはし芸術劇場 P L A T	7,775 m ²	ホール、創造活動室、カフェ など	新築	・設計・建設・工事監理 ・維持管理・運営補助	64 億円	BOT 方式
6	香川県情報通信交流館	3,300 m ²	ワークショップルーム、レンタルルーム、I T ショップ	新築	・展示など室内整備 ・維持管理・運営	42 億円	BOT 方式
7	東根市公益文化施設	4,200 m ²	展示室、ライブラリー、市民活動支援センター	新築	・設計・建設・工事監理 ・開設準備 ・運営・維持管理	66 億円	BTO 方式
8	おおぶ文化交流の杜 a l l o b u	10,000 m ²	ホール、展示室、ライブラリー、カフェ など	新築	・設計・建設 ・維持管理・運営	104 億円	BTO 方式
9	3331 Arts Chiyoda	7,239 m ²	展示室、貸ギャラリー、マルチスペース、ミュージアムショップ、カフェ など	改修	・設計・監理 ・改修工事	不明	RO 方式
10	鎌倉美術館	21,509 m ²	ホール、展示室、レストラン など	改修	・改修設計・工事監理 ・開館準備 ・総括・維持管理	未定	RO 方式
11	福岡市美術館	14,526 m ²	展示室、ライブラリー、カフェ など	改修	・設計・建設 ・開館準備 ・維持管理・運営	100 億円	RO 方式
12	三鷹市立アニメーション美術館	3,500 m ²	展示室、ライブラリー、ミュージアムショップ、カフェ など	新築	・設計・建設・工事監理 ・飲食・物販 ・展示企画協力	不明	三鷹方式 (建築物の負担付寄付)

3 運営方式の検討、運営体制の構築

美術館の運営については、基本構想や基本計画の理念に基づく施設運営、事業活動を実現するのに相応しい運営方式、運営体制を検討する必要がある。

①運営方式

美術館の運営については、直営と指定管理者制度の導入のいずれかを選択する必要がある。また、指定管理者の業務範囲や権限について詳細に設定することが求められる。

<主要都市の美術館における参考データ※> ※地方行財政調査結果を集計

- ・主要都市の美術館 48 施設のうち、「直営」で運営している施設が全体の 2/3 にのぼる。
- ・「指定管理方式」を導入している美術館は 16 館で、全体の 33.3%。そのうちの 15 館で、市が設置する財団法人が指定管理者として運営を行っており、民間企業・民間団体が運営する施設は 1 館のみ。
- ・指定管理方式を導入している施設 16 館すべてにおいて、指定管理者が「学芸業務」を行っている。

②運営体制

美術館の運営に当たっては、館長、学芸員、事務系職員などの人員を配置する必要がある。特に、近年では、教育普及担当の専門職員や民間企業のノウハウを有する渉外・広報担当を配置するケースも多い。運営方式を踏まえて、適切な体制の在り方を検討する必要がある。

また、館外の有識者などによる運営協議会や、美術館の活動評価を実施する外部評価委員会などの組織の設置についても検討する必要がある。

<主要都市の美術館における参考データ※> ※地方行財政調査結果を集計

- ・主要都市の美術館 46 施設のうち、常勤職員 10～14 名程度で運営している事例が最も多く (18 館)、その平均延床面積は 7,740 m²。
- ・常勤学芸員は、4 名以下と 5～9 名の施設がほぼ同数。5～9 名の施設は 21 館あり、その平均延床面積は 7,831 m²。

[常勤職員の人数]

常勤職員 (人)	館数 (館)	延床面積平均 (m ²)
～4	7	1,716
5～9	13	4,920
10～14	18	7,740
15～19	6	9,944
20～	3	23,629
合計	46	

[常勤の学芸系職員の人数]

常勤学芸員 (人)	館数 (館)	延床面積平均 (m ²)
～4	20	4,970
5～9	21	7,831
10～14	3	11,197
15～19	2	22,029
合計	46	

4 市民協働

相模原市美術館は、基本理念において「市民とともにまちづくり、ひとづくり、ものづくりを行う」としており、市民協働の推進は重要な課題となる。これまでに市内で活発に行われてきた市民による美術活動と連携するほか、さらに市民の参画を拡大し、市民協働を推進することが求められる。

①美術館整備に向けた検討への市民参画

基本構想の策定に当たってパブリックコメントの実施を予定しており、市民からの意見の導入を進めるほか、基本計画の策定や設計段階などでも市民のワークショップなどによる参画機会を設けて、積極的な市民参画を促進する。

②イベントの展開

上記の美術館整備に向けた市民参画と合わせて、街中や既存施設を利用したアートイベントを展開し、美術館設置に向けた認知度の向上や、美術館活動への参画の気運の醸成を図る。

美術館の開館や開館後の活動を伝える展覧会、アートイベントを行うほか、美術館の整備の各段階を伝える展覧会やイベントなど、市民とともに創る美術館として、継続的・発展的な事業展開が求められる。

③ボランティア養成プログラムの構築

市民協働の一つの方法として、美術館活動におけるボランティアの導入が考えられる。開館に先立って、ボランティアの養成に取り組むことにより、開館時からの市民参画を実現することが可能となる。

[ボランティア養成講座事例]

	館名 ・プログラム名 ・終了後の活動	プログラム内容
1	大分県立美術館 (大分県大分市) ・OPAMサポーター全体研修、グループ研修 ・美術館が実施する事業運営のサポート	美術館と利用者のかけ橋となるサポーターを育成するプログラム。2014年時点で131名が登録、活動。毎月1回、各回2時間程度。 ・全体研修：(1)美術館の環境 (2)所蔵品コレクションについて (3)緊急救命処置について (4)建築について (5)教育普及について (6)広報活動のための知識 (7)日本美術 (8)近代美術 (9)資料収集・整理について (10)歴史・土器について (11)工芸・彫刻について (12)現代美術について ・グループ研修：各グループ(ギャラリー・ワークショップ・図書・広報)に分かれて研修を実施。
2	茅野市美術館 (長野県茅野市) ・美術館サポーター養成講座 ・美術館サポーター養成講座で提案された各案は、翌年度に市民館や美術館が企画する事業の候補となる	美術館について学び、考え、実践するプログラム。定員20名。「きほん編」と「ひろがる編」の2段階に分かれる。 ・きほん編 (1)「美術館の仕事」 (2)「茅野市美術館サポーターの活動」 (3)「人と人をつなぐアイデア出しワークショップ」 (4)「他の美術館を見学しよう」 ・ひろがる編 (1)「もっと！茅野市美術館／夢の企画を考えよう」 (2)特別講座「旅するムサビがやってくる！in 茅野」 (3)特別講座「見ることの広がり・美術館から学校へ、そして社会へ」 (4)「美遊 com.会を見学しよう」 (5)「夢の企画について話そう」
3	東京都美術館 (東京都台東区) ・とびらプロジェクト ・アート・コミュニケーターとして、まちづくり、コミュニティづくりなどの活動に貢献	アートを介してコミュニティを育むアート・コミュニケーター、通称「とびラー」を育成するプログラム。毎年40人程度を公募。2014年時点で150名登録。 (1)基礎講座：コミュニティづくりの基本を学ぶ講座。4～6月に開催、全6回。1年目のとびラーは全員参加 (2)実践講座：「対話による鑑賞」、「アクセス・プログラム」、「建築ツアー」の3つのコースの中から、1つ以上を選択し受講。6～3月に開催、各講座全7～8回 (3)とびラボ：とびラー同士が自発的に行うミーティングやワークショップ (4)3年目ゼミ：3年目のとびラーが自主的に企画する勉強会、ワークショップ
4	横浜美術館 (神奈川県横浜市) ・横浜美術館ボランティア ・様々な来館者に展示会やコレクションの魅力を伝える	展示や作品を解説するボランティアを育成するプログラム。 (1)美術館やコレクションについての学習 (2)企画展の事前ガイダンス (3)小学生・中学生の展示会鑑賞サポート (4)様々な障害を抱える人の鑑賞サポート (5)横浜トリエンナーレとの合同活動 (6)近隣地域と横浜美術館をつなぐ活動 (7)上記の活動のための研修会・勉強会
5	アーツ前橋 (群馬県前橋市) ・アートスクールSコース ・鑑賞サポーター研修 (1)おしゃべりアーツツアーの鑑賞サポート (2)学校団体、ギャラリーツアーのサポート活動	教育普及プログラムの企画立案から実施までを行うプログラム。定員15名。全5回、各回3時間程度。 (1)美術館の教育普及プログラムを学ぶ (2)企画展会期中に実施する教育普及プログラムを企画立案する (3)企画したプログラムを実施開催する 学校連携事業「おしゃべりアーツツアー」の鑑賞サポーターを育成するプログラム。全8回、各回3～7時間程度。 (1)オリエンテーション (2)～(3)基礎研修 (4)～(7)実践研修 (8)リフレクション

卷末資料

相模原市美術館基本構想 (答申)

平成26年2月

相模原市美術館基本構想検討委員会

- 目 次 -

はじめに	1
第1章 美術館の理念と性格	2
第2章 美術館の事業活動	4
第3章 美術館の機能	7
第4章 美術館の施設整備	9
実現に向けて	10

はじめに

昭和29年の市制施行から60年近くが過ぎ、今や人口70万を超える大都市となった相模原市は、神奈川県北西部に位置し、北部は東京都、西部は山梨県と接し、県下では横浜市、川崎市に次ぐ人口規模を持つ、戦后市制施行された日本の市では最も人口の多い都市として急成長を遂げてきた。

そうした人口集中地帯ながら相模川を中心に丹沢山地や小仏山地など広域にわたり水系、山系が広がる緑豊かな地域であり、市がうたう“潤水都市”として自然と都市が交歓する親密な環境が形作られてきた。また美術館予定地近隣は大学や教育機関、企業や商業地域が集中する文教地域としても知られ、特に日本で最も美術大学が密集し、アーティストたちが集い、世界的なフォトフェスティバルが開かれるアートゾーンとしても近年大きく注目されている。

平成11年には隣接する東京都町田市と業務核都市を形成、21世紀に入り、相模原市は津久井町、相模湖町、城山町、藤野町と合併、平成22年には政令指定都市となるなど首都圏南西部における広域的な交流拠点都市としてますます期待を集めている。しかし広がり発展する市全体の一体化や活性化に求心的な役割を果たすべき美術館はこれまで存在せず、地域のアイデンティティや文化の核をなすセンター機能の設置が早くから市民に切望されていた。

街と人と夢を育み、質の高い文化創造を目指すには、新しい形で芸術を市民の生活や環境に浸透させていく拠点づくりが不可欠であり、また周辺に多く集まる小中学校、高校、大学、企業、商業施設、研究機関、NPOなどとの連携ターミナルとしても美術館の設立は強く望まれている。このような状況下に県北初の公立美術館ができる意義は大きく、変容する相模原市の未来に向けた文化の中心となるべく美術館建設が早急に必要とされていると言えるだろう。

第1章 美術館の理念と性格

基本理念

相模原の未来へ向け、まちづくり、ひとづくり、ものづくりをおこなう文化創造の中心施設

(設立目的)

広く市民と時代に対して場を開き、自然と都市が共生する豊かな社会環境を目指し、地域の活性化に寄与するとともに、市の顔(シンボル)として文化的なアイデンティティを支え、現在進行形のアートや土地に根ざしたアートを発信し、相模原の夢ある未来の基盤をつくりあげる。

美術館の性格

〔A〕<つくり、育て、学ぶ美術館>

まちづくり、ひとづくり、ものづくりの拠点として生活密着型のタウン・ミュージアムの性格を持つ。

〔B〕<自然と都市の共生を目指す美術館>

都市のなかにながら、自然・生命・宇宙と交流できる自然/都市共生型のネイチャー・ミュージアムの性格を持つ。

〔C〕<未来を生きる子どもたちのための美術館>

現在進行形の、生きた未来のアートを積極的に発信し、小中学校などとも強い連携を結びながら、子どもたちの新しい想像力を育てるフューチャー・ミュージアムの性格を持つ。

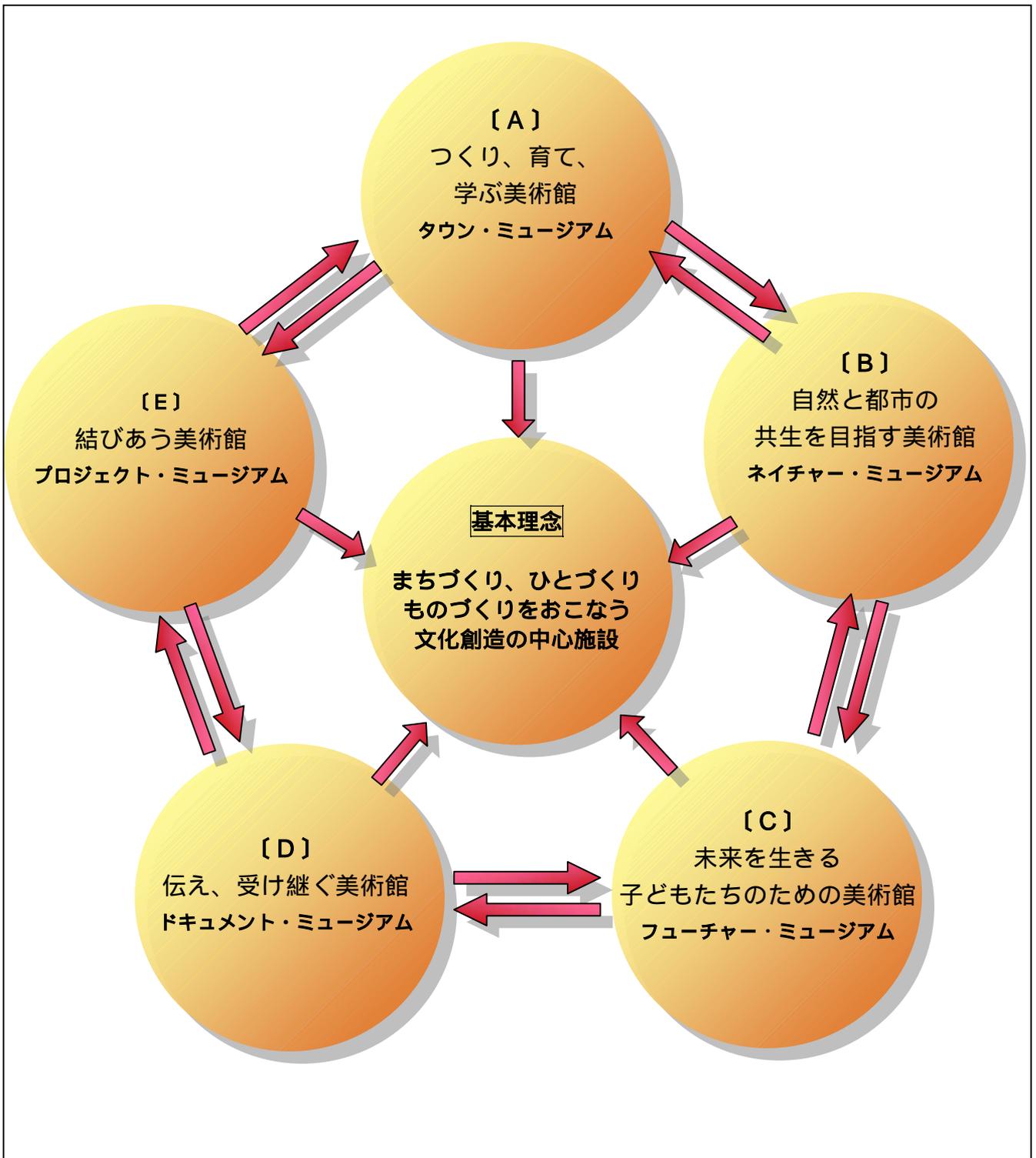
〔D〕<伝え、受け継ぐ美術館>

相模原の土地の記憶ばかりではなく、昭和の記憶や時代の記録を積極的にくみあげ、過去の記憶や記録を未来へ向けて生かしていくドキュメント・ミュージアムの性格を持つ。

〔E〕<結びあう美術館>

学校等の教育・研究機関、企業や商業施設、研究機関、NPOなど、様々な組織と連携し、社会の交流や共生のためのプロジェクトを立案・実行するプロジェクト・ミュージアムの性格を持つ。

美術館のビジョン図（考え方）



第2章 美術館の事業活動

美術館の対象領域

近現代の美術をはじめ、コンテンポラリーアート、写真、映像、デザイン、建築、メディアアートなど幅広い分野を対象とし、様々なアートの広がりを「現在」という視点でとらえていく。

美術館の利用対象者

子どもから高齢者まで、すべての世代が感動し、楽しめる美術館を目指し、市民参加を積極的に促し、市民とともに創造するミュージアムを具現化する。

美術館の重点対象

国内外のみならず、相模原ゆかりの作品や周辺地域で特色ある作家を紹介し、研究の対象とする。

美術館の特色ある活動

アートに関連した創造活動の拠点となる広義の美術館、地域や市民の生活に密着した美術館、館の内外で様々な事業展開を行う活動する美術館として、以下の5つの特色を持つ。

〔A〕〈つくり、育て、学ぶ美術館活動〉

まちづくり、ひとづくり、ものづくりの拠点として、市民のアートへの理解と関心を深めるため、学校や商業地域、公園や野外において、展覧会やワークショップ等による場づくりや、場のリフォームを積極的に展開できるよう、アートバス（移動巡回美術館）を活用するなどして、市全域を美術館化する事業を实践する。

また、アーティストインレジデンス*などによる若手作家の育成事業も行う。

（出前美術館、フォトタイルストリート、野外アートイベント、コンサート、フィルム上映会など）

*アーティストインレジデンス：国内外の芸術家をひとつの地域に一定期間滞在させて、創作活動をさせる制度や事業。

〔 B 〕 < 自然と都市の共生を目指す美術館活動 >

潤水都市宣言をした相模原市は首都圏では稀有な自然とともに生きる都市であり、日本の宇宙開発拠点である宇宙航空研究開発機構（JAXA）や自然を核とした藤野芸術の家など関連施設も多く、そのような市の特性を生かし、21世紀に必要とされる自然との共生のビジョンを伝える場を実現していく。

〔 C 〕 < 未来を生きる子どもたちのための美術館活動 >

21世紀のアートは、絵画、彫刻のみならず写真、映像、デザイン、建築、アニメーションやメディアアートなど広範なジャンルを包括し、ダイナミックに展開している。そうした多様化するアートの動向を踏まえ、科学と芸術の融合といったアートの持つ新たな可能性やコミュニケーション力など、アートの力を未来を生きる子どもたちに提示し、未来のアーティストたる子どもたちを育むための活動を積極的に実践する。

〔 D 〕 < 伝え、受け継ぐ美術館活動 >

急速に人口が増加し、ベッドタウン化した都市にとって大切なのは過去の記憶や記録を現在に活かしていく場づくりである。相模原市はこれまで13回にわたり市民参加型の写真祭「フォトシティさがみはら」を開催し、世界的な写真コレクションも保存してきた。また周辺には国立近代美術館フィルムセンター相模原分館や光学機器メーカーの工場、写真や映像を専門的に学ぶ大学など、多くの写真映像資源を有する環境がある。大切なものを伝えていく伝承の仕組みがますます重視される今日、蓄積された貴重な写真映像コレクションをベースに、新たな記憶と記録の場づくりを行う。

〔 E 〕 < 結びあう美術館活動 >

市内の小中学校から周辺の美術大学等の教育機関はもとより、各種の研究機関、企業や商業施設、病院や福祉施設、NPOなど様々な組織と連携し、子どもから高齢者、障害者などにも配慮した、社会交流、共生社会の形成に向けたアートプロジェクトを積極的に展開する。

（相模原ブランド開発、シャッター商店街の再生、企業サポートシステム、インクルーシブアート*）

*インクルーシブアート：障害の有無や、年齢、性別、職業（プロ・アマチュア）、資格、学歴、経験などにかかわらず、全ての人々を対象にして行うアート活動とその支援。

美術館の活動の指針

美術館の諸活動において、常設企画展や継続的な産学官の共同事業、アーカイブの公開、写真フェスティバル等の恒常的な事業以外は、企画ごとに学芸員、外部のアーティスト、デザイナー、ゲストキュレーター、プランナー、サイエンティスト、市民ボランティア、学生アシスタントなどから編成されたプロジェクトチームによる事業展開を図る、プロジェクト・ベースの運営方法を採用し、時代に即応した新たなテーマ、幅広いテーマに取り組めるよう努めることとする。

なお、プロジェクトの運営にあたっては、市が別途に設けるアドバイザリー・ボード*によるプロジェクト事業の評価と承認のもと、責任者（プロジェクトディレクター）を立てて事業遂行の任に当てることとし、市は事業全体の運営責任を負うとともに、事業実現に向けた支援体制の確立に努めるものとする。

*キュレーター：美術館などで企画・運営を担う専門職。

*アドバイザリー・ボード：事業や運営に対する助言や評価を行う外部組織。ただし、プロジェクト・ベースにおいては、単なる第三者機関ではなく、事業実施の協力者としての側面を持つ。

第3章 美術館の機能

美術館は、上記の理念や活動を実現するため、以下の機能を有する。

〔A〕収集・保存機能

すでにある相模原関連の作品や膨大な写真のコレクションを活かしながら、相模原美術の核を形成する意味でも長期的な展望のもとに収集保存を行っていく。今後も相模原ゆかりの作家については、若手も含め、近現代の作品や資料を広く体系的に収集するとともに、特色ある美術館を表明していくためにも、これまで高い評価を得ている写真コレクションなどの充実を図る。

〔B〕調査・研究機能

美術館の要となる機能として捉え、十分な人材と設備のもとに、内外の優れたアーティストや作品、芸術動向や地域文化活動について、正確な調査研究を行い、その成果を展覧会やイベント、ワークショップ等の美術館活動として広く市民に還元し、市の芸術文化の振興に努める。

また、各種のプロジェクト・ベース型の事業自体も調査研究の対象とし、それらの成果をアーカイブやドキュメントとして展開させていく。

〔C〕展示機能

常設展示のみならず、様々な展覧会やイベント、映像上映やパフォーマンスなど多様な目的に対応できるスペースと設備を有し、搬入・展示・撤去作業がスムーズに行えるバックヤードやマネージメントスペース等の充実を図りながら、効果的な展示空間を演出し、感動や元気を与える場づくりを目指す。

〔D〕教育・普及機能

小中高等学校や大学などとの連携により、児童や学生の教育の場としての機能を有するとともに、社会人や高齢者など、幅広い層に対応できる鑑賞教育、ワークショップ、フロアレクチャー*などの学びの場を用意し、生涯学習の場としての機能充実を図る。

そうした機能を十分かつ効果的に果たすために、積極的なアウトリーチ活動を行い、将来の相模原文化を担う人材を育成していく。

*フロアレクチャー：展示室内で作品を見ながら行う展示解説。

〔 E 〕文化創造・発信機能

地元の企業や大学の振興とも連動した、新しいメディアやデザインの動向を積極的に紹介する活動等を通して、産・学・官との連携を軸とした相模原ならではの文化創造の発信ベースとしての機能を果たす。

〔 F 〕交流機能

ボランティアルームやアートカフェなど、市民が芸術活動に積極的に参加し、そこで新たな出会いや交流が生まれる活気のある場を設けるとともに、あわせて無料ゾーン（無料鑑賞日）や親子で楽しめるアートプレイングルームなど、市民が生活感覚で気軽に利用し、親しみと安らぎを感じられる場を提供する。

第4章 美術館の施設整備

前章までに述べてきた美術館の理念と性格を実現する上で、ここでは機能に即した必要な施設をゾーニングの観点から例示する。

〔A〕収集・保存機能スペース

収蔵庫（美術品、写真・映像コレクション、美術資料などの収蔵）

〔B〕調査・研究機能スペース

研究室、調査作業室

〔C〕展示・機能スペース

特別展示室、常設展示室（写真、収蔵品）

市民ギャラリー（従来の市民ギャラリー機能を発展継承）

映像ルーム・パフォーマンスシアター

（映像展示、フィルムフェスティバル等の開催、身体表現発表）

〔D〕教育・普及機能スペース

アートバス（移動巡回美術館）、ワークショップルーム、

レジデンス・スタジオ、アトリエ工房、ライブラリー、講堂

〔E〕文化創造・発信機能スペース

メディアデザインギャラリー

（地元の企業や大学の振興とも連動した、新しいメディアやデザインの動向を積極的に紹介する）

〔F〕交流機能スペース

ボランティアルーム、アートカフェ、

無料ゾーン（無料鑑賞日）、アートプレイングルーム

以上のような、本市にふさわしい機能を備えた美術館を、「アトラボはしもと」の敷地に整備するためには、少なくとも中層程度の多層階施設が必要となる。しかしながら、これに必要な十分なバックヤードや駐車スペース等を含めると、現在の候補地では諸活動の運営に制限が生じることも懸念され、市民が活用する上での利便性なども考慮に入れた新たな建設地の選定が望まれる。

なお、上記に挙げた美術館の機能の一部は、「アトラボはしもと」の事業活動において展開されており、美術館建設の実現に向けて、大学、学校、企業、商店街などとの一層の協力関係を構築していく上でも、「アトラボはしもと」での事業の継続と更なる拡充が必要となる。

実現に向けて

平成23年5月、総勢15人で構成された相模原市美術館基本構想検討委員会は、現「アトラボはしもと」の所在地を建設予定地として、相模原市が整備するにふさわしい美術館像を目指して検討を開始した。

検討にあたっては、同年3月11日の東日本大震災を経て、まさに社会と芸術との関係が改めて問い直されつつある中で、各委員は各自新たな視点から21世紀に求められる新しい美術館の在り方を模索検討し、協議を重ねてきた。

本答申では、理念に掲げた「相模原の未来へ向け、まちづくり、ひとづくり、ものづくりをおこなう文化創造の中心施設」に示すように、「つくる」=「創造」をキーワードとして、相模原の将来に向けて「まち」=「社会」、「人」=「市民」、「もの」=「文化」を創造する未来志向の美術館を目指している。今なお現代社会は国際的にも経済問題や紛争による不安定な状況にあり、加えて我が国では原子力災害という新たな課題を抱えることとなった。委員会は、相模原の「創る美術館」としての在り方が、そうした不透明な社会に対して市民に活力や精神的充足をもたらし、より良いコミュニティの構築に寄与することを望むものである。

現在、相模原市では、首都圏南西部の広域交流拠点都市のまちづくりが多角的に進められており、既に一部返還が決定している相模原駅北側の相模総合補給廠用地は、今後の相模原駅周辺のまちづくりにおいて、大きな意味を持つものと言えよう。検討委員会で協議を重ねてきた相模原にふさわしい機能と規模を備えた新しい美術館についても、今後本格化される相模原駅周辺におけるまちづくり計画との整合を図りつつ建設することにより、当該地区のまちづくりの牽引役を担うとともに、新たな相模原市のイメージ形成に大きな役割を果たす存在となることが考えられる。よって本答申後、市は速やかに美術館建設の実現に向け建設地予定地を見直し、美術館の運営につながる文化芸術事業の推進などに関しても、更に具体的に取り組むことを、委員一同切望する次第である

2 市民意識調査

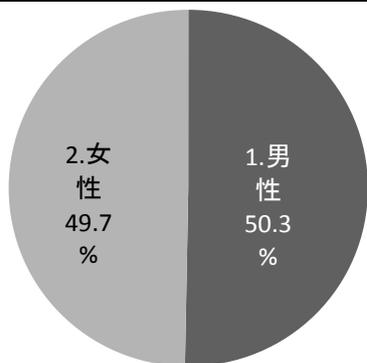
(1) アンケート実施概要

- ①対 象 市政モニター 148 人
- ②回答者数 143 人
- ③実施期間 平成 27 年 9 月 2 日から 9 月 14 日まで
- ④目 的 美術への興味や美術館の整備に対するご意見をお伺いし、相模原市に相応しい美術館のあり方を考える上での参考とするため、アンケートにご協力いただきました。

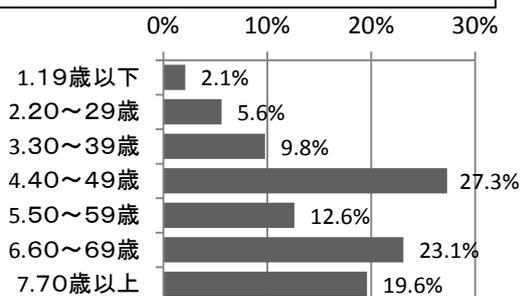
(2) 各設問と回答状況及び結果概要

【基本的項目】 n=143

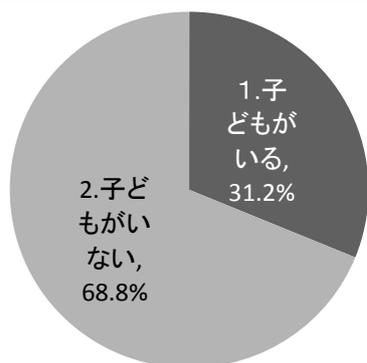
問 1. 性別



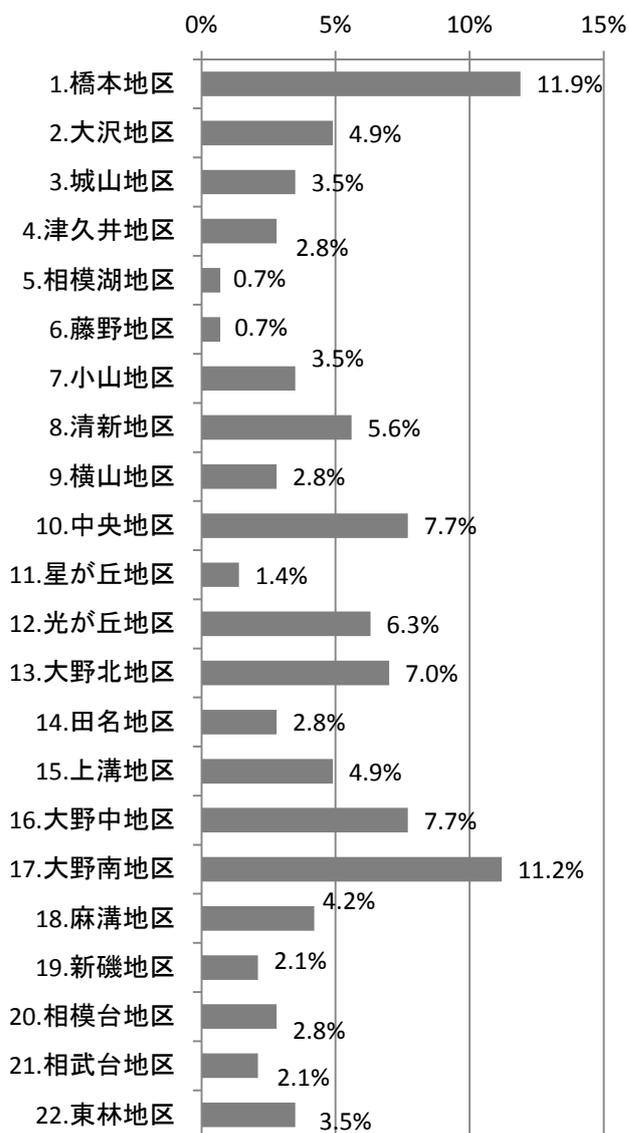
問 2. 年齢



問 4. 子供の有無



問 3. 居住地区

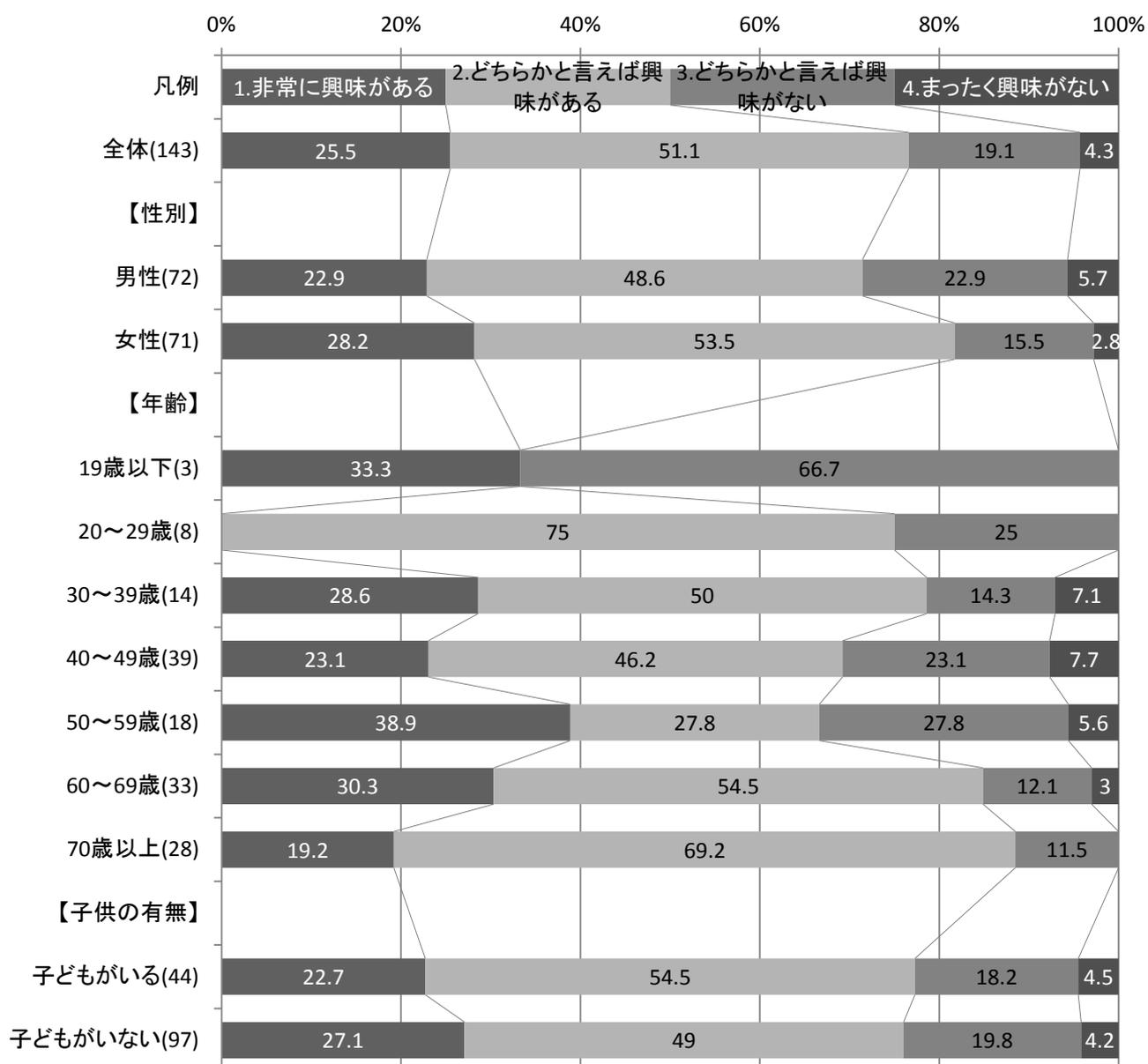


【美術に対する意識】

問 5. 美術への興味

- ・「非常に興味がある」(25.5%)、「どちらかと言えば興味がある」(51.1%)を合わせた76.6%が「興味がある」と回答しており、興味を持っている市民が大多数である。
- ・性別では、若干、「女性」のほうが、興味がある割合が多い。
- ・年齢別では、「非常に興味がある」割合が最も多いのは「50～59歳」(38.9%)、最も少ないのは「20～29歳」(0%)。一方、「どちらかと言えば興味がない」「全く興味がない」を合わせた割合が最も高いのは「50～59歳」(33.4%)。
- ・子どもの有無では、あまり大きな違いは見られない。

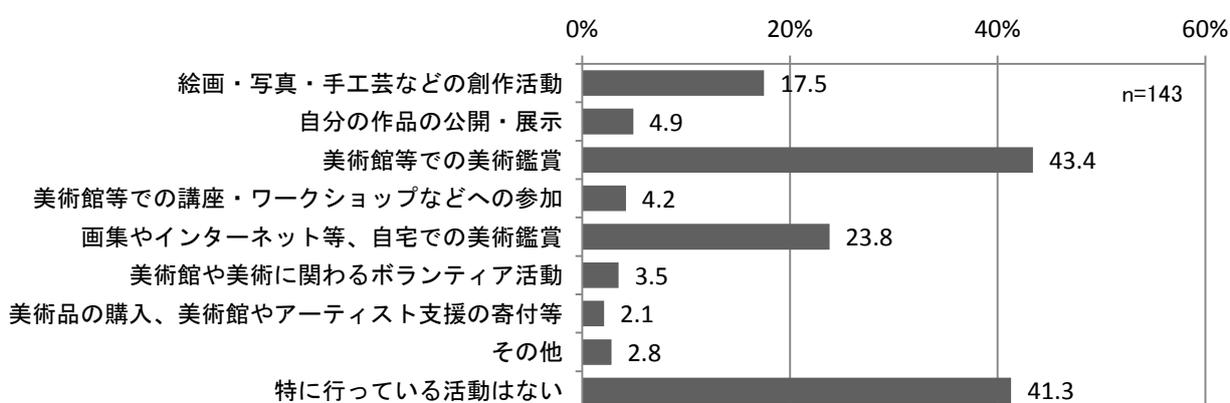
男性に比べて女性のほうが興味を持っている割合が高い。
また、年齢が高いほど興味を持っている割合が高い傾向がある。ただし、40～59歳では興味がない割合が比較的高い。



問 6. 美術活動への参加の有無

- ・最も多いのは、「美術館等での美術活動」(43.4%)、次いで「特に行っている活動はない」(41.3%)。
- ・「絵画・写真・手工芸などの創作活動」を行っているのは、17.5%にとどまる。
- ・「美術館や美術活動に対するボランティア活動」を行っているのは、3.5%。
- ・属性別に見ると、「特に行っている活動はない」割合が5割を超え高い属性は、「19歳以下」(66.7%)、「30～39歳」(50.0%)、「40～49歳」(53.8%)、「子どもがいる」(52.3%)。

美術に関する活動を行っている市民は、全体の6割弱にとどまり、美術鑑賞が中心。
主体的な活動を行っている市民は、2割程度しか見られない。
また、若者と子育て世代での参加率が低い。



Q6. 美術活動への参加の有無

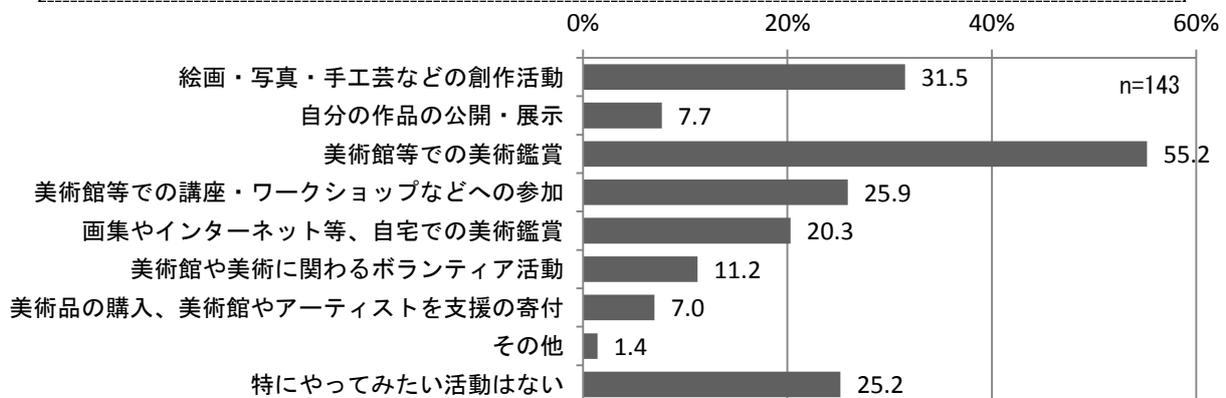
	絵画・写真・手工芸などの創作活動	自分の作品の公開・展示	美術館等での美術鑑賞	美術館等での講座・ワークショップなどへの参加	画集やインターネット等、自宅での美術鑑賞	美術館や美術に関わるボランティア活動	美術品の購入、美術館やアーティスト支援の寄付等	その他	特に行っている活動はない
全体	17.5	4.9	43.4	4.2	23.8	3.5	2.1	2.8	41.3
【性別】									
男性(72)	16.7	4.2	40.3	4.2	20.8	4.2	4.2	4.2	45.8
女性(71)	18.3	5.6	46.5	4.2	26.8	2.8	0	1.4	36.6
【年齢】									
19歳以下(3)	33.3	0	0	0	0	0	0	0	66.7
20～29歳(8)	25	12.5	37.5	12.5	37.5	0	0	0	25
30～39歳(14)	14.3	0	28.6	7.1	14.3	0	7.1	7.1	50
40～49歳(39)	10.3	2.6	30.8	0	17.9	0	2.6	0	53.8
50～59歳(18)	16.7	0	44.4	11.1	44.4	11.1	5.6	0	44.4
60～69歳(33)	18.2	6.1	57.6	3	24.2	6.1	0	3	27.3
70歳以上(28)	25	10.7	57.1	3.6	21.4	3.6	0	7.1	35.7
【子供の有無】									
子どもがいる(44)	13.6	0	36.4	2.3	15.9	2.3	4.5	2.3	52.3
子どもがいない(97)	18.6	7.2	46.4	4.1	26.8	4.1	1	3.1	37.1

問7. 参加してみたい美術活動

- ・最も多いのは、「美術館等での美術活動」(55.2%)、次いで「絵画・写真・手工芸などの創作活動」(31.5%)、「美術館等での講座・ワークショップなどへの参加」(25.9%)。
- ・「美術館や美術活動に対するボランティア活動」への参加は、11.2%見られる。
- ・属性別に見ると、性別で「講座・ワークショップへの参加」「美術館や美術活動に対するボランティア活動」において、女性のほうが男性に比べ高い。
- ・子どもの有無では、「やってみたい活動はない」割合が、「子どもがいる」(22.7%)に対して「子どもがいない」(26.8%)で、若干低い。

「美術館等での美術鑑賞」に対する参加意欲は5割を超え、非常に高い。また、創作活動や講座・ワークショップ、ボランティア活動について、潜在的な参加意欲が見られる。

子どもがいる人の参加意欲は、いない人に比べ若干高い。

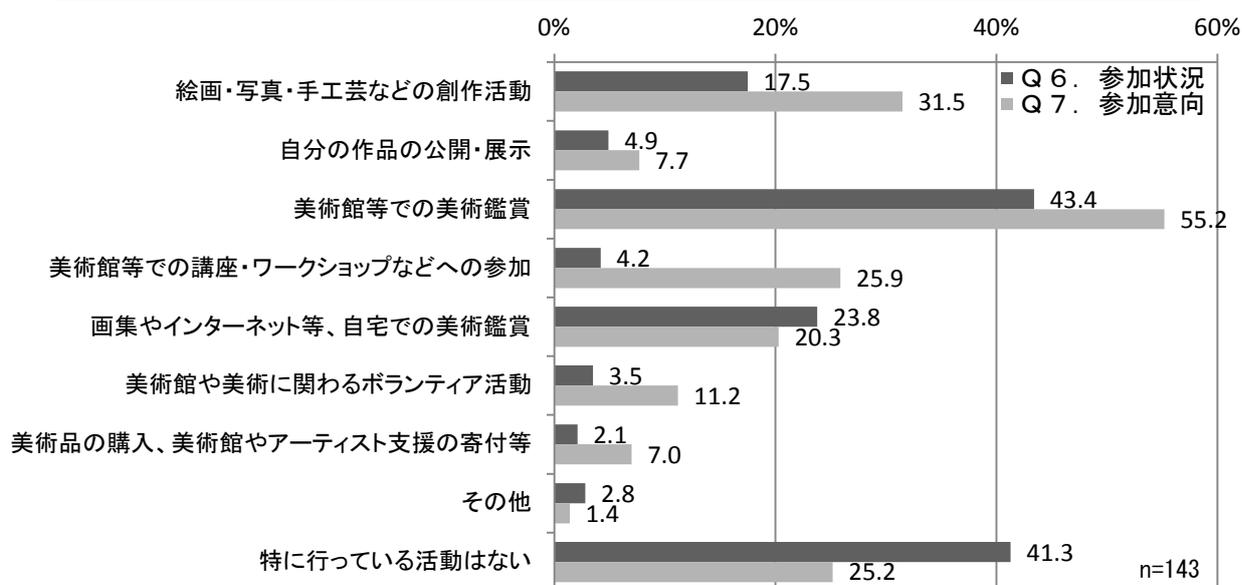


Q7. 参加してみたい美術活動									
	絵画・写真・手工芸などの創作活動	自分の作品の公開・展示	美術館等での美術鑑賞	美術館等での講座・ワークショップなどへの参加	画集やインターネット等、自宅での美術鑑賞	美術館や美術に関わるボランティア活動	美術品の購入、美術館やアーティストを支援の寄付	その他	特にやってみたい活動はない
全体	31.5	7.7	55.2	25.9	20.3	11.2	7.0	1.4	25.2
【性別】									
男性(72)	27.8	6.9	55.6	15.3	19.4	4.2	6.9	1.4	25.0
女性(71)	35.2	8.5	54.9	36.6	21.1	18.3	7.0	1.4	25.4
【年齢】									
19歳以下(3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
20～29歳(8)	12.5	12.5	62.5	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	25.0
30～39歳(14)	35.7	7.1	42.9	35.7	28.6	0.0	7.1	0.0	14.3
40～49歳(39)	33.3	2.6	46.2	33.3	12.8	12.8	7.7	0.0	30.8
50～59歳(18)	22.2	5.6	55.6	27.8	16.7	22.2	5.6	11.1	27.8
60～69歳(33)	27.3	6.1	60.6	21.2	36.4	15.2	12.1	0.0	18.2
70歳以上(28)	42.9	17.9	71.4	17.9	10.7	3.6	3.6	0.0	25.0
【子供の有無】									
子どもがいる(44)	31.8	4.5	45.5	31.8	18.2	9.1	6.8	0.0	22.7
子どもがいない(97)	30.9	9.3	58.8	21.6	20.6	12.4	7.2	2.1	26.8

「問 6. 美術活動への参加の有無」「問 7. 参加してみたい美術活動」の比較

- ・参加状況に比べ参加意向が特に高い活動は、「絵画・写真・手工芸などの創作活動」、「講座・ワークショップへの参加」。
- ・「特に行っている活動はない」「特にやってみたい活動はない」を属性別に比較すると、「30～39 歳」「40～49 歳」「子どもがいる」において、「特にやってみたい活動はない」割合は低いのに対して「特に行っている活動はない」が 20 ポイント以上高いことから、参加したくても参加できない現状が見られる。

創作活動や講座・ワークショップへの参加機会の提供が求められている。
30～49 歳を中心とする子育て世代において、潜在的な美術活動への意欲が見られる。

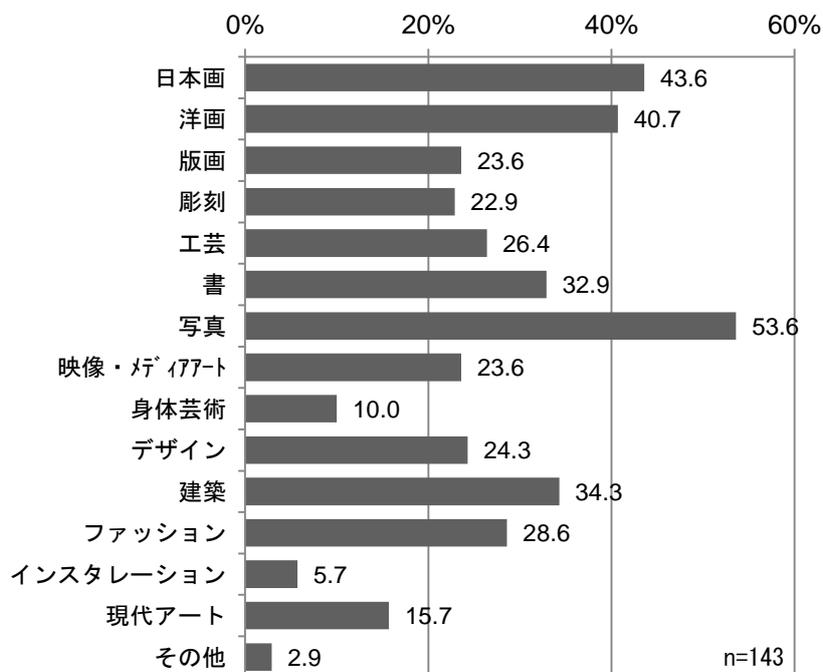


参加意向があるにもかかわらず、現在参加していない割合 (Q7の回答率からQ6の回答率を差し引いたもの)									
	絵画・写真・手工	自分の作品の公	美術館等での美術	美術館等での講	画集やインターネット	美術館や美術に関	美術品の購入、美	その他	特に行っている活動は
全体	14.0	2.8	11.8	21.7	-3.5	7.7	4.9	-1.4	-16.1
【性別】									
男性 (72)	11.1	2.7	15.3	11.1	-1.4	0.0	2.7	-2.8	-20.8
女性 (71)	16.9	2.9	8.4	32.4	-5.7	15.5	7.0	0.0	-11.2
【年齢】									
19歳以下 (3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (8)	-12.5	0.0	25.0	12.5	-12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (14)	21.4	7.1	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	-7.1	-35.7
40～49歳 (39)	23.0	0.0	15.4	33.3	-5.1	12.8	5.1	0.0	-23.0
50～59歳 (18)	5.5	5.6	11.2	16.7	-27.7	11.1	0.0	11.1	-16.6
60～69歳 (33)	9.1	0.0	3.0	18.2	12.2	9.1	12.1	-3.0	-9.1
70歳以上 (28)	17.9	7.2	14.3	14.3	-10.7	0.0	3.6	-7.1	-10.7
【子供の有無】									
子どもがいる (44)	18.2	4.5	9.1	29.5	2.3	6.8	2.3	-2.3	-29.6
子どもがいない (97)	12.3	2.1	12.4	17.5	-6.2	8.3	6.2	-1.0	-10.3

問 8. 興味のある美術分野

- ・最も多いのは「写真」(53.6%)で、半数を超え高い。次いで「日本画」(43.6%)、「洋画」(40.7%)、「建築」(34.3%)、「書」(32.9%)。
- ・性別で見ると、「男性」では「日本画」「写真」が5割を超え特に高いのに対して、「女性」ではジャンル毎の差が少なく、最も高いのは「ファッション」。
- ・年齢別では、年代の違いが見られる。最も高いのは、「20～29歳」で「ファッション」、「30～39歳」で「建築」、「40～49歳」で「写真」「建築」、「50～59歳」で「写真」、「60～69歳」で「日本画」、「70歳以上」で「写真」となっている。

「写真」「日本画」「洋画」「建築」「書」に対する興味が高い。性別、年齢別で興味の対象が異なっている。



Q 8. 興味のある美術分野

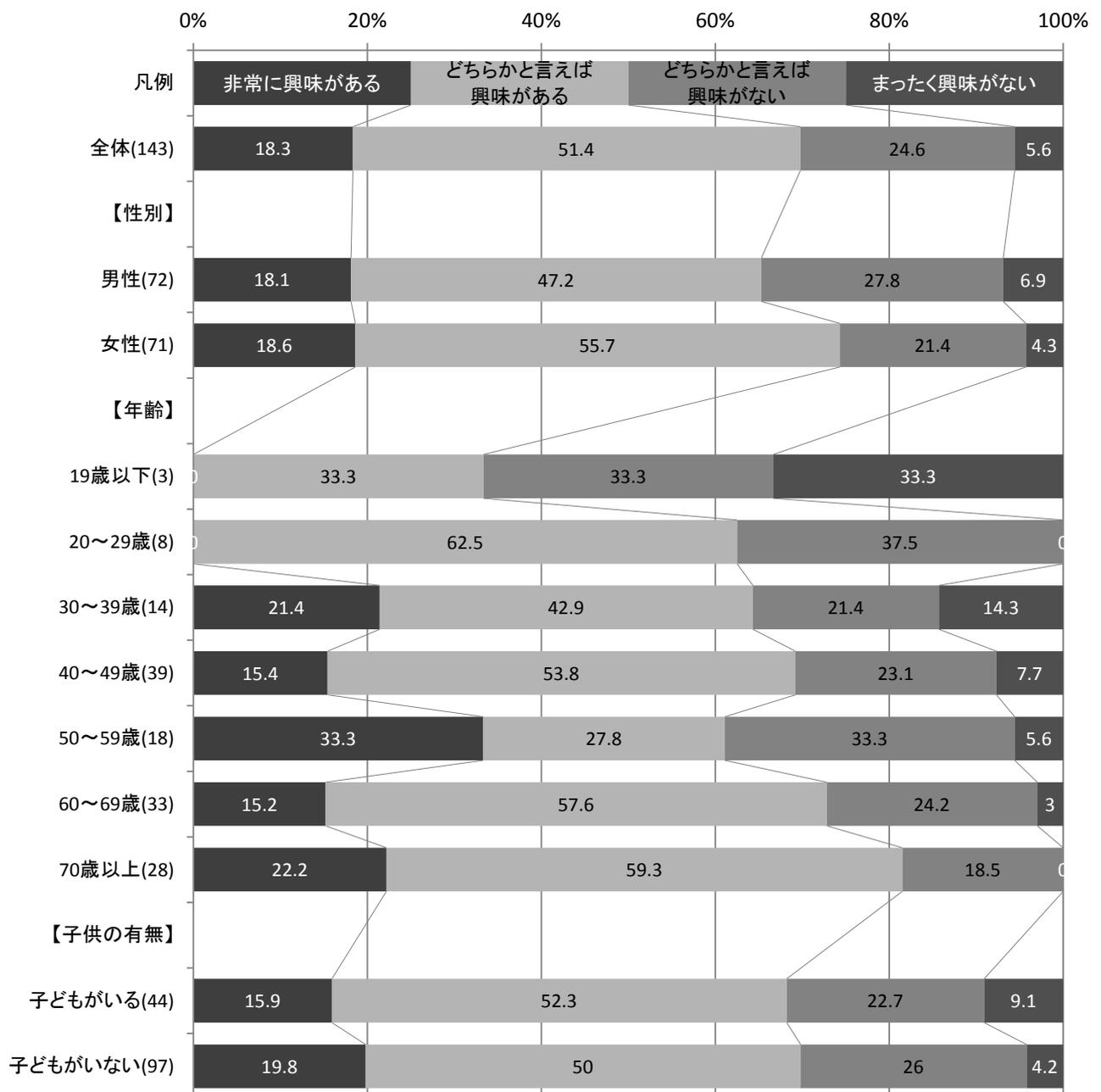
	日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書	写真	映像・メディアアート	身体芸術	デザイン	建築	ファッション	インスタレーション	現代アート	その他	
全体	43.6	40.7	23.6	22.9	26.4	32.9	53.6	23.6	10.0	24.3	34.3	28.6	5.7	15.7	2.9	
【性別】																
男性(72)	50.0	38.9	23.6	26.4	19.4	22.2	63.9	22.2	8.3	22.2	27.8	12.5	2.8	12.5	1.4	
女性(71)	36.8	42.6	23.5	19.1	33.8	44.1	42.6	25.0	11.8	26.5	41.2	45.6	8.8	19.1	4.4	
【年齢】																
19歳以下(3)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
20～29歳(8)	37.5	25.0	25.0	25.0	12.5	50.0	50.0	50.0	0.0	25.0	37.5	62.5	0.0	25.0	12.5	
30～39歳(14)	14.3	35.7	21.4	14.3	35.7	28.6	42.9	42.9	28.6	35.7	50.0	35.7	21.4	28.6	0.0	
40～49歳(39)	24.3	29.7	10.8	10.8	29.7	21.6	37.8	29.7	10.8	35.1	37.8	21.6	0.0	18.9	8.1	
50～59歳(18)	44.4	44.4	38.9	33.3	44.4	38.9	61.1	22.2	22.2	22.2	50.0	50.0	11.1	22.2	0.0	
60～69歳(33)	60.6	54.5	24.2	30.3	27.3	27.3	54.5	9.1	3.0	15.2	27.3	30.3	6.1	9.1	0.0	
70歳以上(28)	66.7	44.4	33.3	29.6	11.1	48.1	74.1	11.1	3.7	14.8	22.2	7.4	3.7	7.4	0.0	
【子供の有無】																
子どもがいる(44)	27.9	30.2	14.0	18.6	32.6	32.6	39.5	25.6	16.3	32.6	37.2	30.2	4.7	18.6	7.0	
子どもがいない(97)	49.5	44.2	26.3	25.3	24.2	32.6	58.9	22.1	7.4	21.1	33.7	27.4	5.3	14.7	1.1	

【美術館に対する意識】

問 9. 美術館への興味

- 最も多いのは、「どちらかと言えば興味がある」(51.4%)。「非常に興味がある」(18.3%)と合わせると、69.7%が「美術館に興味がある」としている。
- 「全く興味がない」は5.6%にとどまる。
- 属性別では、「非常に興味がある」が最も高いのは「50～59歳」(33.3%)。一方で「どちらかと言えば興味がない」「全く興味がない」の合計が高いのも「50～59歳」。

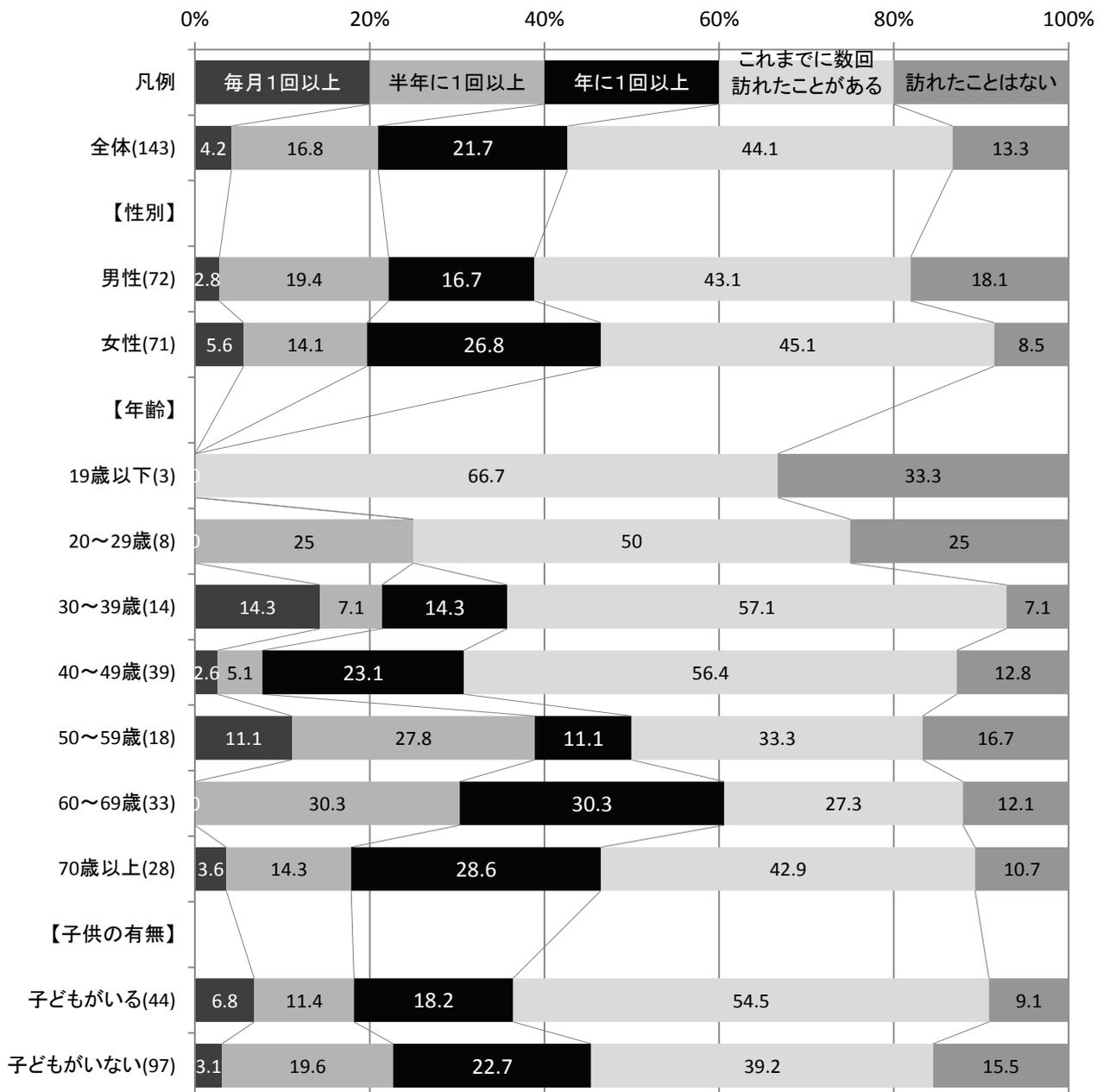
7割が美術館に興味があり、全く興味がないは非常に低い。



問 10. 美術館に行く頻度

- ・最も多いのは、「これまでに数回訪れたことがある」(44.1%)。「訪れたことはない」が13.3%見られる。少なくとも年に1回以上訪れる割合は、42.7%。
- ・属性別では、回答に大きなばらつきが見られる。「毎月1回以上訪れる」割合が高いのは、「30～39歳」(14.3%)、「50～59歳」(11.1%)。「訪れたことはない」割合が高いのは、「19歳以下」(33.3%)、「20～29歳」(25.0%)。
- ・少なくとも年に1回以上訪れる割合は、年齢が若いほど低く、50歳以上で高い傾向にある。

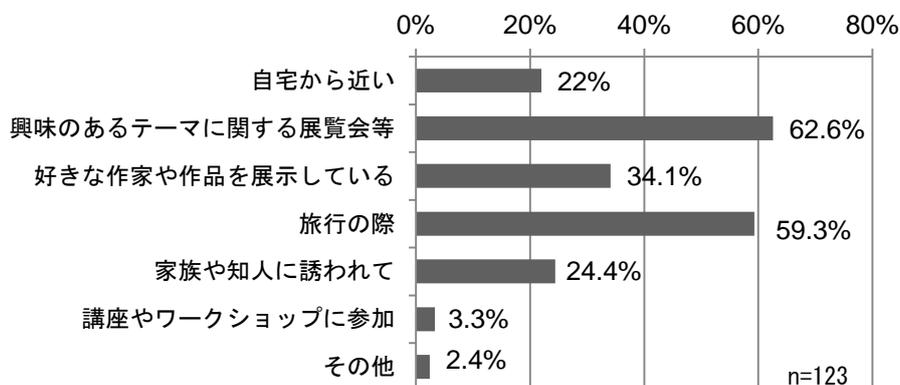
20～49歳では、定期的に訪れる機会が比較的少ない。



問 10-1. (美術館への来館経験がある方) 美術館に行く機会

- ・「興味のある展覧会等」(62.6%) が最も多く、次いで「旅行の際」(59.3%) が多い。

美術館を訪れる層では、来館のきっかけとして「展覧会の内容」が重要である。市民の興味を惹く企画展の開催が求められる。



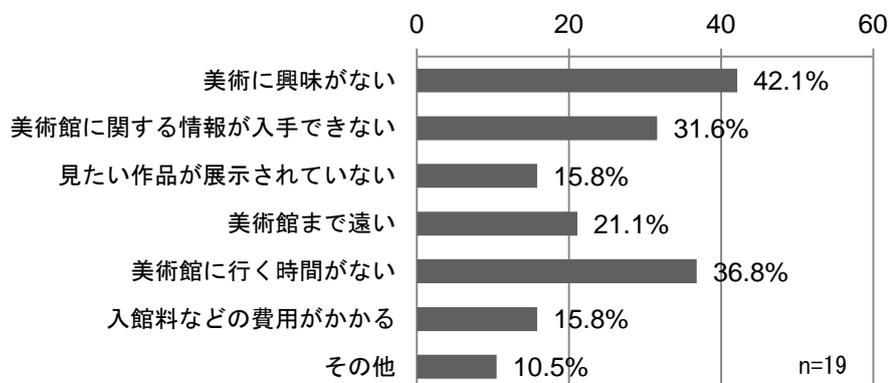
「その他」

- ・無料チケットをもらった(2)
- ・有名な絵画が展示されていた(1)

問 10-2. (美術館への来館経験がない方) 美術館を訪れなかった理由

- ・「美術に興味がない」(42.1%) が最も多く、次いで「美術館に行く時間がない」(36.8%)、
「美術館に関する情報が入手できない」(31.6%) が多い。

これまで美術館を訪れなかった層に対しては、「美術館に関する情報の提供」が重要である。美術館の存在を知らせたり、展覧会やイベントの情報をできる限り広く発信し、興味を持ってもらうきっかけとすることが必要である。

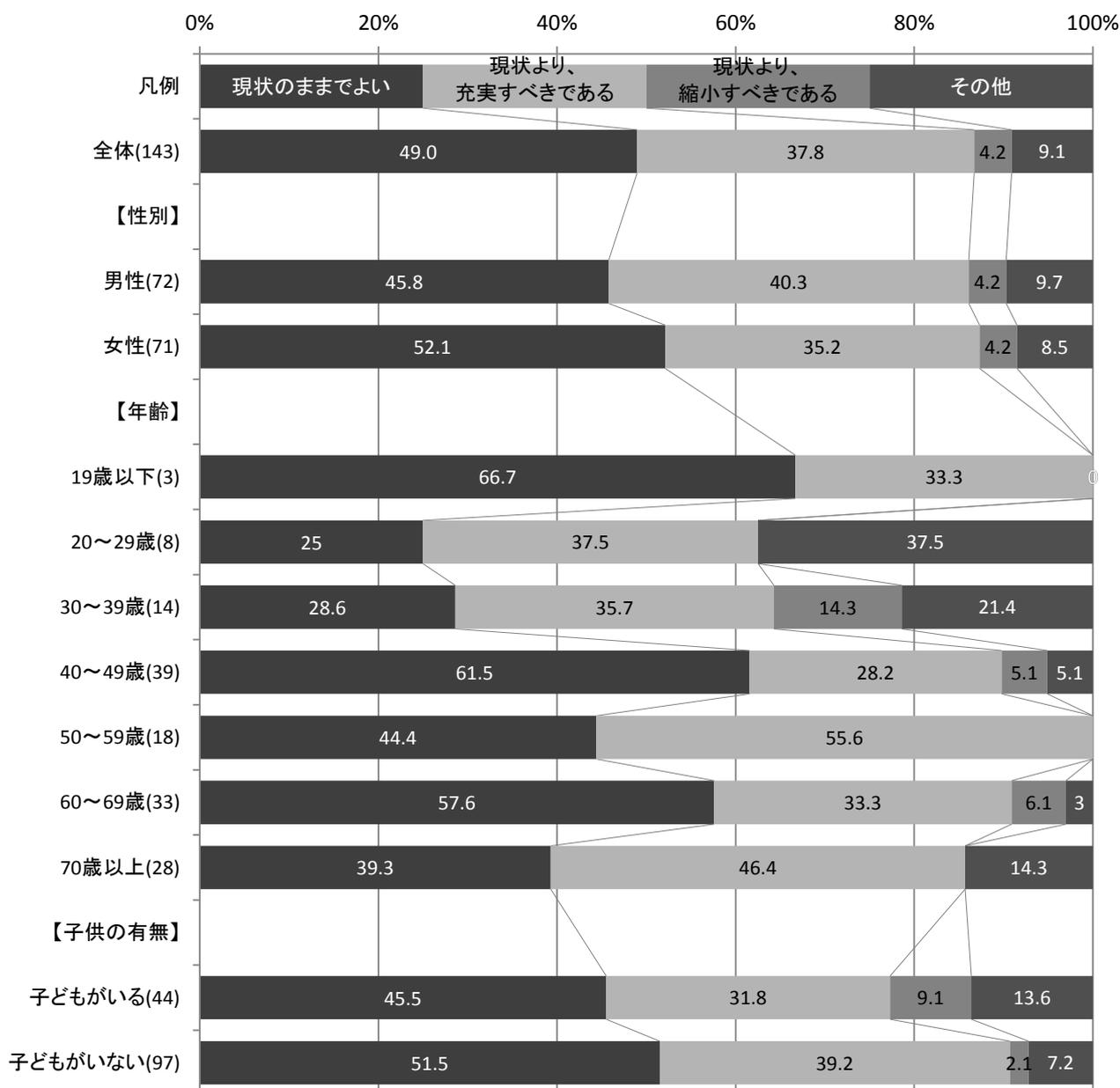


【相模原市の美術館等に対する考え】

問 11. 相模原市の美術活動への考え

- ・「現状のままでよい」(49.0%)で最も多く、次いで「現状より充実すべきである」(37.8%)。「現状より縮小すべきである」(4.2%)は非常に低い。
- ・属性別でみると、「20～29歳」「30～39歳」「50～59歳」「70歳以上」では、「現状より充実すべきである」が「現状のままでよい」を上回っている。「40～49歳」「60～69歳」では、「現状のままでよい」が半数を超え高い。

「縮小すべき」という意見は非常に少なく、「現状維持」及び「充実すべき」という意見が多数を占めた。「現状維持」が多いことから、これまでの美術活動に対して一定の評価が得られたとも言える。また、「現状維持」及び「充実すべき」の割合については年齢別で異なる傾向が見られ、20～39歳の若い世代では、「充実すべき」が最も多い。



問 12. 問 11 を選んだ理由

- ・「現状のままでよい」と回答したなかでは、現状に対して満足している意見がある一方、「市内の美術活動を利用したことがないのでわからない」という意見が多く見られた。
- ・「現状より充実すべき」と回答したなかでは、「市域全体でアートにふれあえる機会の創出」を望む意見が多く見られた。また、「情報発信の不足」に対する指摘が多く見られる。

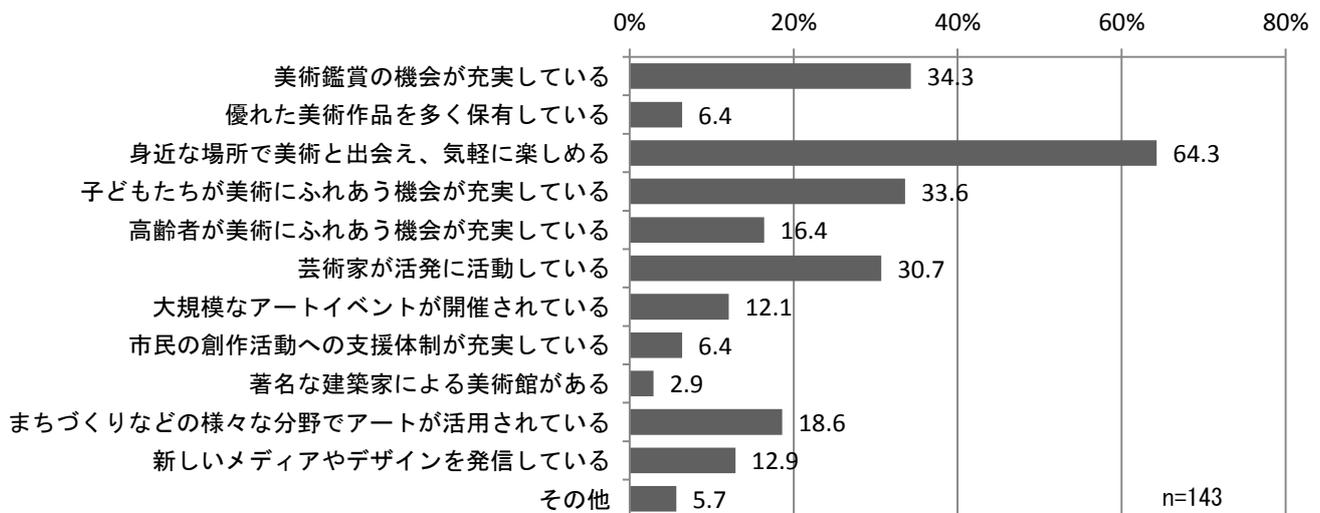
活動の充実を望む意見が見られる、特に、情報発信の拡充を望む意見が多く見られる。すべての回答において「現状がわからない」という意見が複数見られる。現状を知ってもらった上で議論を深める必要がある。

市の美術活動への考え			理由	
			分類	主な意見
現状のままでよい	Q11 回答数	70	現状に対する満足(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・今のままでも利用しやすい(3) ・活動が充実している(3)
			充実させる必要はない(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用規模に見合っている(4) ・他機関による施設もあり、充実している(2)
			予算に対する懸念(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や整備に関する費用が懸念される(4)
	Q12 意見数	30	わからない(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味がない(4) ・市内の美術活動を、特に利用したことがない(3) ・現状がわからない(2)
			要望(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にある教育機関との連携により活動の充実を図る ・幅広い年齢層が利用できるような活動を充実してほしい ・情報発信を充実させてほしい ・縮小することなく現状の規模を維持してほしい
				<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が不足している(9) ・更なる内容の充実を図ってほしい(2) ・来館促進の工夫により、美術ファンを増やすべき ・興味を引くテーマの取組が少ない ・幅広い年齢層を対象とした企画をしてほしい
現状より充実すべき	Q11 回答数	54	現状に対する課題(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備よりも、機会や内容の充実を図るべき(2) ・財政面から新施設建設の必要はない
			施設整備の必要はない(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の美術活動に参加したことがない(2)
			わからない(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・市域全体でアートにふれあえる機会をつくってほしい(6) ・親子で楽しめる内容にしてほしい ・親しみやすい内容にしてほしい ・親しみやすい施設を整備してほしい ・出張講座を開催してほしい ・小さな子どもでも参加できる活動を行ってほしい
	Q12 意見数	35	要望(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに有用な体験をさせてあげたい ・アートとふれあう機会の必要性を感じているから ・若手作家の輩出など、アート事業の成果を上げる必要がある ・アートに親しめるほどの、心の余裕が必要である
			その他(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況からみても、現状のままでよい(2) ・利用しづらい(2) ・魅力がない(2) ・興味がない
				<ul style="list-style-type: none"> ・現状に対する意見(2) ・わからない(4)
縮小すべき	Q11 回答数	6	充実させる必要はない(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信をすべきである(2)
	Q12 意見数	5		<ul style="list-style-type: none"> ・現状を知らない(4) ・相模原市に美術活動のイメージがない ・コンセプトやターゲットの明確化が必要である ・興味がない
その他	Q11 回答数	13	現状に対する意見(2)	
	Q12 意見数	7	その他(3)	

問 13. 相模原市の美術に関する目指すべきイメージ

- ・「身近な場所で美術と出会え、気軽に楽しめる」(64.3%)と非常に高い。次いで、「美術鑑賞の機会が充実している」(34.3%)、「子どもたちが美術にふれあう機会が充実している」(33.6%)、「芸術家が活発に活動している」(30.7%)。
- ・属性別の意見のばらつきは比較的小さい。ただし、「30～39歳」「40～49歳」では、他の属性で高い傾向にある「美術鑑賞の機会が充実している」が低く、「芸術家が活発に活動している」が他の属性に比べて高い。

「身近な場所で美術と出会え、気軽に楽しめる」イメージが、すべての属性から求められている。



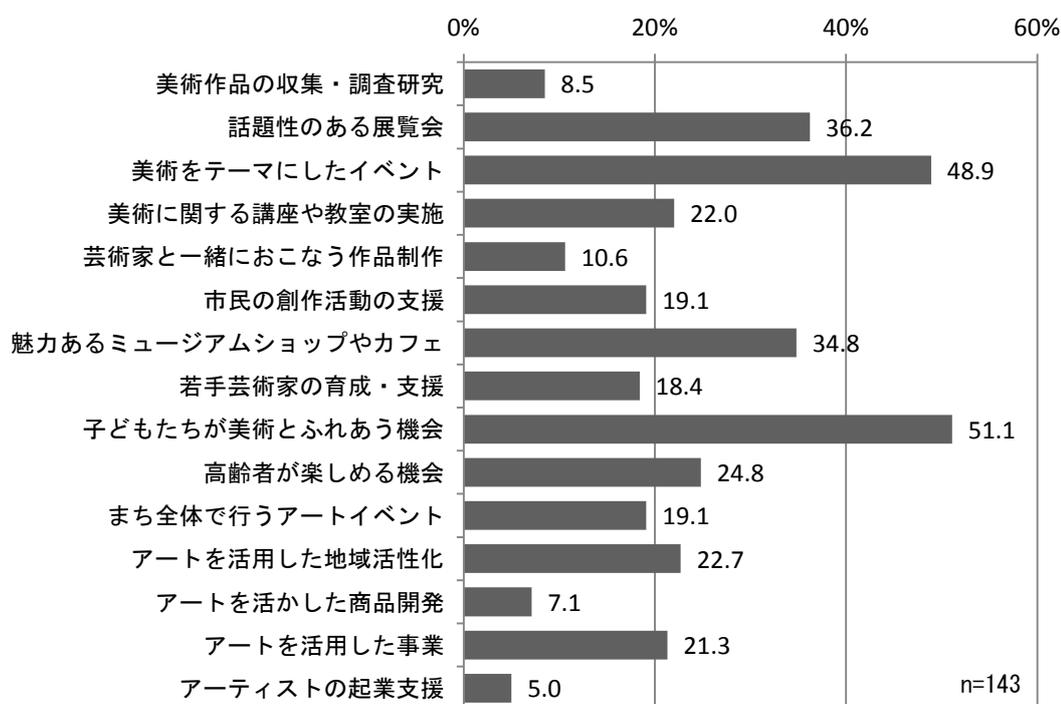
13-1. 美術に関する目指すべきイメージについて

	美術鑑賞の機会が充実している	優れた美術作品を多く保有している	身近な場所で美術と出会え、気軽に楽しめる	子どもたちが美術にふれあう機会が充実している	高齢者が美術にふれあう機会が充実している	芸術家が活発に活動している	大規模なアートイベントが開催されている	市民の創作活動への支援体制が充実している	著名な建築家による美術館がある	まちづくりなどの様々な分野でアートが活用されている	新しいメディアやデザインを発信している	その他
全体	34.3	6.4	64.3	33.6	16.4	30.7	12.1	6.4	2.9	18.6	12.9	5.7
【性別】												
男性(72)	33.8	7.0	67.6	38.0	21.1	25.4	16.9	4.2	4.2	12.7	19.7	4.2
女性(71)	34.8	5.8	60.9	29.0	11.6	36.2	7.2	8.7	1.4	24.6	5.8	7.2
【年齢】												
19歳以下(3)	66.7	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳(8)	50.0	12.5	62.5	50.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
30～39歳(14)	-	7.1	64.3	21.4	7.1	50.0	21.4	7.1	0.0	28.6	21.4	0.0
40～49歳(39)	13.2	7.9	63.2	44.7	5.3	42.1	7.9	7.9	5.3	21.1	5.3	7.9
50～59歳(18)	41.2	-	82.4	23.5	17.6	23.5	17.6	11.8	0.0	17.6	5.9	0.0
60～69歳(33)	46.9	9.4	65.6	34.4	12.5	28.1	12.5	0.0	0.0	18.8	15.6	9.4
70歳以上(28)	53.6	3.6	53.6	21.4	42.9	17.9	10.7	10.7	7.1	10.7	17.9	7.1
【子供の有無】												
子どもがいる(44)	18.6	2.3	69.8	39.5	7.0	41.9	11.6	7.0	4.7	25.6	14.0	4.7
子どもがいない(97)	41.1	8.4	63.2	31.6	20.0	25.3	12.6	6.3	1.1	15.8	12.6	6.3

問 14. 相模原市の美術に関して重視すべき活動

- ・「子どもたちが美術とふれあう機会」(51.1%)が最も多く、次いで、「美術をテーマにした楽しいイベント」(48.9%)。「話題性のある展覧会」(36.2%)、「魅力あるミュージアムショップやカフェ」(34.8%)も多い。

「子どもたち」「楽しいイベント」「ミュージアムショップ、カフェ」等、気軽に利用できる活動への要望が見られる。



14-1. 美術に関して重視すべき活動

	美術作品の収集・調査研究会	話題性のある展覧会	美術をテーマにしたイベント	美術に関する講座や教室の実施	芸術家と一緒にこなう作品制作	市民の創作活動の支援	魅力あるミュージアムショップやカフェ	若手芸術家の育成・支援	子どもたちが美術とふれあう機会	高齢者が楽しめる機会	まち全体で行うアートイベント	アートを活用した地域活性化	アートを活かした商品開発	アートを活用した事業	アーティストの起業支援	その他
全体	8.5	36.2	48.9	22.0	10.6	19.1	34.8	18.4	51.1	24.8	19.1	22.7	7.1	21.3	5.0	4.3
【年齢】																
男性(72)	8.5	35.2	53.5	19.7	8.5	25.4	31.0	15.5	53.5	26.8	31.0	23.9	4.2	15.5	1.4	4.2
女性(71)	8.6	37.1	44.3	24.3	12.9	12.9	38.6	21.4	48.6	22.9	7.1	21.4	10.0	27.1	8.6	4.3
【性別】																
19歳以下(3)	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳(8)	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	50.0	0.0	25.0	50.0	12.5	37.5	12.5	0.0
30～39歳(14)	7.1	35.7	57.1	21.4	21.4	7.1	28.6	7.1	71.4	14.3	21.4	28.6	7.1	14.3	7.1	7.1
40～49歳(39)	5.1	17.9	43.6	17.9	17.9	12.8	41.0	20.5	56.4	12.8	15.4	17.9	7.7	20.5	5.1	5.1
50～59歳(18)	17.6	41.2	76.5	23.5	17.6	17.6	47.1	35.3	29.4	11.8	23.5	17.6	5.9	11.8	11.8	0.0
60～69歳(33)	9.4	40.6	53.1	28.1	6.3	18.8	46.9	21.9	46.9	28.1	15.6	21.9	9.4	25.0	3.1	6.3
70歳以上(28)	10.7	57.1	39.3	21.4	0.0	35.7	17.9	7.1	46.4	57.1	21.4	25.0	3.6	25.0	0.0	3.6
【子供の有無】																
子どもがいる(44)	6.8	18.2	54.5	18.2	22.7	6.8	34.1	15.9	68.2	13.6	13.6	25.0	2.3	20.5	4.5	4.5
子どもがいない(97)	8.4	43.2	47.4	24.2	5.3	24.2	35.8	18.9	44.2	30.5	22.1	21.1	9.5	22.1	5.3	3.2

問 15. 相模原市の美術・美術館に対する意見・要望

- ・市内の美術活動に対する要望(53件)が最も多く見られた。その中でも特に「情報発信の充実」に対する意見が多い。その他には、「身近な活動」「子どもたちが芸術にふれる機会」「教育機関との連携」「話題性のある展示」「参加しやすい雰囲気」「参加しやすい料金設定」等が見られる。
- ・次いで多いのは、目指すべき美術館のあり方に関する意見(43件)で、「美術活動の拠点整備」を求める意見が見られる。また、「既存施設の活用や移動美術館の実施」、「魅力的で話題性のある／様々なジャンルの展覧会を開催する」「身近で立ち寄りやすい」等が求められている。
- ・施設を整備する必要はないという意見(7件)も見られる。

市内の美術活動に対する要望が多く挙げられた。特に情報発信に対する要望が多い。加えて、市内の美術活動の拠点となる施設の整備に対する要望も見られる。

分類	主な意見
市内の美術活動に対する要望 (53)	・情報発信を積極的に行ってほしい(13)
	・訪れやすく、参加しやすい、身近な活動を行ってほしい(10)
	・子どもたちが芸術にふれる機会を増やしてほしい(5)
	・市内や近隣の教育機関と連携し、充実を図ってほしい(3)
	・話題性のある展示を行ってほしい(3)
	・参加しやすい雰囲気づくりをしてほしい(3)
	・参加しやすい料金設定にしてほしい(3)
	・若手作家の育成を行ってほしい(2)
	・参加型のイベントを行ってほしい
	・市内で行われている既存の活動を連携させ、拡充させてほしい
	・美術活動への理解者養成となるよう、普及事業を行ってほしい
	・鑑賞マナーや鑑賞方法など、鑑賞のサポートを行ってほしい
	・市民の創作活動の推進になるような活動を行ってほしい
目指すべき美術館のあり方 (43)	・市内の美術活動の拠点施設を整備してほしい(9)
	・既存施設の活用や、移動美術館の実施などを行ってほしい(5)
	・魅力的で話題性のある展覧会や、様々なジャンルの展覧会を開催する施設(5)
	・身近で立ち寄りやすい施設(3)
	・アクセスの良い場所にある施設(2)
	・イベントなど参加体験型の施設(2)
	・テーマ性のある施設(2)
	・地域資源を活かした展示施設(2)
	・子どもたちの興味や関心を引き伸ばすような施設
	・魅力的な空間の施設
・魅力的な作品やショップなど、地域活性化につながる施設	
・収蔵機能のある施設	
施設を整備する必要はない (7)	・他に優先すべき事業がある(4)
	・施設の整備費用の負担や、展示物等のすみわけが懸念される(2)
	・今ある地域資源をいかすべきである
その他 (18)	・芸術を身近に感じられるまちにしてほしい(3)
	・市内各所をギャラリーに見立てて、美術に対する風土を培うべきである
	・美術関係の図書を充実させてほしい
	・従来型の美術作品・美術活動を活用したまちづくりではなく、美術工芸を取り入れたまちづくりを行うべきである

3 文化及び美術関係団体等へのアンケート

(1) アンケート実施概要

- ①対 象 美術館基本構想検討委員会をはじめ、相模原市の文化芸術の有識者
40人
- ②方 法 郵送調査
- ③回答者数 26人（回収率65.0%）
- ④実施期間 平成27年12月11日から12月25日まで
- ⑤目 的 相模原市美術館基本構想素案に対するご意見をお伺いし、相模原市に
相応しい美術館のあり方を考える上での参考とするため、アンケート
にご協力いただきました。

(2) アンケート結果概要

1 「基本理念」「基本方針」「事業の方向性」に対する主な意見

意見の要旨	主な意見概要
賛同・異議なし（5件）	・理想的な内容である
「アートフィールド」を活かした事業展開（9件）	・アートフィールドに賛同 ・アートと生活が一緒になった総合的な街づくりビジョンが必要 ・美術館を拠点として各地域で事業展開してほしい ・高齢者や障害者などの参画 ・美術以外の分野との連携 ・市内の空き施設を活用したアーティスト育成 ・各地域の芸術家との協働
アートの定義（5件）	・アートの定義づけが必要 ・アートは、すべての人が生まれながらに持っている創造活動 ・アートにより、創造性を持った人材を育成し、街を活性化する
「まちづくり ひとづくり ものづくり」を活かした事業展開（4件）	・「まちづくり ひとづくり ものづくり」を展開することに賛同 ・行政機構も柔軟な連携が必要（教育機関含む） ・基本方針と事業の方向性の関係が分かりにくい
相模原市独自の事業や取組が必要（4件）	・街中が美術館になってほしい ・新たなまちづくりにあわせた独自の芸術文化ビジョンが必要 ・写真、映像を中心とした美術館整備が必要 ・相模原で活動するアーティストへの長期的かつ継続的な支援 ・デザイン、建築、メディアアートの例示
その他（4件）	・子ども向けの事業展開 ・集客力の向上 ・写真コレクションの活用 ・記載方法の工夫

2 「事業展開」に対する主な意見

意見の要旨	意見内容
賛同・異議なし（3件）	・事業展開の内容に賛同 ・事業に優先順位が必要
美術館の個性（2件）	・個性ある美術館になることが必要 ・「自然との共生」が相模原の個性

意見の要旨	意見内容
調査・研究(5件)	<ul style="list-style-type: none"> 本市ゆかりの作家の作品の調査研究の充実 本市ゆかりの作家の作品は調査研究対象とする必要性はない 新しい価値に即したアーカイブ化の研究を行う 記載方法の工夫
収集・保存(11件)	<ul style="list-style-type: none"> 優れた作品の収集をしてほしい 適切な環境のある保存スペースの確保 スペースと保存費用への懸念 収集方法、収集基準の必要性 特徴ある収集方針の必要性 造形さがみ風っ子展の資料保存 デジタルアーカイブスの導入
展示(12件)	<ul style="list-style-type: none"> 本市ゆかりの作家の常設展示場の設置 写真コレクションの活用 市内芸術家の発表の場の確保 さがみ風っ子紹介コーナーの常設 集客力のある企画展の実施 質の高い学芸員の確保
教育・普及(5件)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けの写真教室の拠点 定期的な教育普及事業の実施 周辺美術大学、市内教育機関との連携の充実
文化・創造・交流促進(12件)	<ul style="list-style-type: none"> フォトシティさがみはらの拠点としての整備 市内のアート団体やアーティストとの連携交流促進 国機関（東京国立近代美術館フィルムセンター、宇宙航空研究開発機構）との連携 周辺美術大学との連携による子供たちへの創造活動 アーティストインレジデンスの導入 写真、美術以外の芸術とのコラボレーション 市民協働の実施 子ども、高齢者、障害者などの参画 人材育成を重視 空き店舗の活用 記載方法の工夫

3 「美術館の全体像」に対する主な意見

意見の要旨	意見内容
賛同・異議なし(2件)	
アトラボはしもとの活動維持(3件)	<ul style="list-style-type: none"> 独自の相模原のアイデンティティ創出 市内外への事業発展
全体像の図をわかりやすく(2件)	
多様な市民にひらかれた施設(2件)	<ul style="list-style-type: none"> 広く社会に開かれた施設としての位置づけ 障害者の参画
写真を活かした活動(2件)	<ul style="list-style-type: none"> 本市の特徴である写真を生かした事業展開
美術館の名称(1件)	<ul style="list-style-type: none"> アトラボはしもとの名称は維持 美術館には愛称が必要

4 「施設整備」に対する主な意見

意見の要旨	意見内容
2館体制に賛成(4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独創的な美術館への希望 ・ 2館の組織的な交流の必要性 ・ 橋本に写真美術館、相模原に総合美術館
2館体制にする意義(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2館体制の必要性に対する説明が不足 ・ 1館だけで不足する理由
諸室の機能(7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集保存設備の充実 ・ ワークショップスペースの確保 ・ 宿泊施設の確保 ・ ボランティア用の休憩室、更衣室の確保 ・ 柔軟なレイアウトが可能な展示室やオープンストレージの検討
貸出しスペース、カフェ等、ニーズに沿った施設整備(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ カフェの設置 ・ ライブラリーの設置 ・ その他の公共施設との複合化の検討 ・ コンサートスペースの確保
立地環境(4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅からのアクセスの確保 ・ エルミタージュ美術館のような施設整備
商業施設との複合化(2件)	
建築の重視(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民から永く愛着を持たれるような建物として整備 ・ 美術館自体がアート作品
その他(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の設備 ・ PFI手法の導入

5 「運営・事業推進体制」に対する主な意見

意見の要旨	意見内容
賛同・異議なし(2件)	
効果的な運営方法の検討(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が参加しやすい運営体制 ・ 市民参加の充実 ・ 全て民営化の検討 ・ ミュージアムショップの導入 ・ 指定管理制度の導入
人員配置・育成(8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優れた見識を持つ学芸員の育成 ・ 学生の自主企画による人材育成 ・ 市民を始めとする民間活力の活用 ・ 広報専任スタッフの配置 ・ 準備組織の設置
市民参加(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存ボランティアグループの活用 ・ 参加しやすい活動の企画 ・ 市民との協働の充実 ・ 雇用を意識した取組
その他(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親しみやすい施設づくり ・ 民間活力の導入 ・ 収益事業の実施 ・ マーケティング視点の導入 ・ 事業評価の実施

6 「広報のあり方」に対する主な意見

意見の要旨	意見内容
市民全体への情報提供の充実 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・トップ等のシティセールス ・発信方法の工夫
ウェブを活用した情報発信(2件)	
広報誌を活用した情報発信(2件)	

7 「推進にあたって」に対する主な意見

意見の要旨	意見内容
学校、大学、企業等と連携した事業展開(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立近代美術館フィルムセンター、JAXAとの連携 ・周辺美術系大学他大学との連携 ・企業との連携による施設整備 ・学芸員への教員の採用
若い世代を意識した事業展開(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の活躍が期待されるアーティスト支援 ・市内で活動するアート団体の紹介 ・地域に居住する若手アーティストを支援する基金の設置
その他(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交流拠点整備計画における美術館の位置づけ ・アートラボはしもとにおける展示機能の付加 ・先行整備する美術館(橋本)における美術館(相模原)との暫定的な機能分担 ・市民ギャラリーの継続・機能維持及び美術館との連携

相模原市美術館調査報告書

平成 28 年 1 月

発 行 相模原市

編 集 相模原市市民局文化振興課

〒252-5277

相模原市中央区中央 2 丁目 11 番 15 号

TEL 042-769-8202 (直通)

FAX 042-754-7990

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/>